

科目名	子ども家庭支援論				担当者	佐藤由美子・小山里織						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	授業内容に関する質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける											
専門的 学習成果	①	現代社会において、何故、社会的に子育て支援・家族支援体制が必要になったのか、その背景を説明できる。										
	②	現代社会において、実際にどのような社会的子育て支援・家族支援が行われているのかを説明できる。										
	③	専門職としての在り方を実践的に学び、現場での子育て支援・家族支援の取り組みについて説明できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育て家庭の変容を理解し、子どもの健やかな成長を支えるためにどんな支援が必要なのかを理解し、専門職としての保育士の役割について説明できる（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援の政策動向や、支援を行っている関係機関について学び、専門職として、子ども・家庭の実際に合わせた支援のコーディネートを組み立てることができる（専門的学習効果②に関連）										
	(3)	様々な事例から専門職としてどう向き合うかを学び、支援者としての基本的な技能や実践力を身につけ、実践に取り組むための方法について説明できる（専門的学習成果③に関連）										
授業概要	今、何故「家族援助」なのか、そして「子育て支援」なのか。家庭の機能の変化に伴い、「家族」とは何かを考え、家族の崩壊、地域における子育て支援の希薄化の中で、保育所等の役割について学ぶ。また、子育て支援をめぐる政策動向についても学び、社会的支援の在り方について考察する。具体的な家庭支援の在り方を事例から学び、支援の基礎的な技能を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	80	15回授業の内容を基に試験を行う。								
		平常点	20	授業への取り組み状況を評価。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果②で評価を行う。 (3) は専門的学習成果③で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	松本園子 永田陽子 福川須美 堀口美智子		『家庭支援論』							ななみ書房		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		テキストを活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習しておくこと。特に授業内容に関する文献を読み理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）事後学習としては、授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。（復習：週2時間程度）										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	シラバス	各回授業の取り組みと参加について都度評価を行う。
	学習成果	本授業の内容を理解し、説明できる。	
予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する		
2回	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つとは	
	学習成果	子育ては大人の一方的な行為ではなく、子どもは自ら「育つ」のであり、それが適切に実現されるように援助するのが子育てであることを説明できる。	
予習復習の内容	子どもが育つということは、どういうことなのか、子育てとは何かについて説明できるようにする		
3回	授業内容	子育てと家族・家庭 子どもが育つ場としての「家族」「家庭」	
	学習成果	子どもが育つ場としての家族・家庭の意義について考え理解を深め説明できる。	
予習復習の内容	子どもが育つ場は「社会」であり、社会全体が負うべきものであるということを理解し、家族への社会的支援の必要について言語化できるようにする		
4回	授業内容	子育てと家族・家庭 家族・家庭の動向と現状	
	学習成果	家族の動向について、近年大きく変化してきた「家族」の在り方、形態について説明できる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返り、理解を深めていく		
5回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て環境を取り巻く社会環境の変化	
	学習成果	子育てを取り巻く環境が子ども達の育ちや子育てにどのような影響を及ぼすか説明できる。	
予習復習の内容	都市化や少子化、情報化、消費化、高学歴の進行、また近年の社会的な格差の拡大がどのような影響を及ぼしているのかについて、整理していく		
6回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て意識の変化	
	学習成果	子育てを取り巻く社会の構造的な変化の中で、どのような子育て意識の変化が起きたのか説明できる。	
予習復習の内容	女性が育児をしながら働くことに対して大きな変化が見られたことを理解し、整理していく		
7回	授業内容	子育てをめぐる問題 子育て「困難」のさまざま	
	学習成果	子どもや子育て家庭に、今なぜ社会的な支援が強く求められているのか、これまでの支援の在り方の課題について説明できる。	
予習復習の内容	子育て家庭が抱える課題について振り返りを行う		
8回	授業内容	子育て家庭を支援する具体的な制度	
	学習成果	結婚、妊娠、出産、子育てと家庭の状況の変化に伴い、段階に応じてどのような公的支援があるのか、具体的に説明できる	
予習復習の内容	身近な子育て家庭に目を向け、実際にどのような支援が利用されているのかを把握し、9回で事例を報告しあう。		
9回	授業内容	子育て家庭支援の政策動向	
	学習成果	子育てを支援する国の責任にういて認識し、これまでの政策の動向を理解し、子ども・子育て支援制度が施行された理由を説明できる。	
予習復習の内容	子育て支援に政策の名称を関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。		
10回	授業内容	子ども・子育て支援新制度	
	学習成果	子ども・子育て支援新制度による幼稚園・保育所・こども園等の施設の分類や法的な位置づけについて説明できる。また、標準時間、短時間認定、一号認定、2号認定、3号認等、現場に出るにあたっての基本的な知識を説明できる。	
予習復習の内容	子育て支援に政策の名称を関わる法や政策の名称を教科書を読み、確認する。		
11回	授業内容	子育て家庭支援の在り方	
	学習成果	子育て家庭支援の目的を理解し、家族の危機対応力に沿って、どのような支援が必要なのかを説明できる。	
予習復習の内容	事例を通して、危機対応能力について把握し、どのような支援が望ましいのかを全体でも考察しながら理解を深める。		
12回	授業内容	相談・援助者の役割と基本的態度	
	学習成果	相談・援助に臨むあたり大事にすべきことがわかり、基本的な態度や姿勢について説明できる。	
予習復習の内容	相談・援助に臨むにあたり大事にすべきことについて理解を深める。		
13回	授業内容	育児モデルとなる伝承の育児法 援助の実際	
	学習成果	あやし唄、わらべ歌を覚え、いくつかできるようになる。またどのような場所で育児の伝承に向け、どのような取り組みがなされているのか報告できる。	
予習復習の内容	後半に子どもの発達に添ったわらべ歌を実践してみる		
14回	授業内容	とくべつなニーズを持つ家族と援助	
	学習成果	特別なニーズへの対応の考え方を理解する。事例を通し考察し、これまで学んできた支援の仕組みや制度、支援者としての態度や姿勢などを確認しながら、現場に出た時、どのような援助ができるか、考え説明することができる。	
予習復習の内容	事例についてどのような支援が必要なのかを全体でも考察し理解を深める。		
15回	授業内容	世界の子育て これまでの授業の振り返り	
	学習成果	世界の子育ての状況を知ることにより、わが国の状況を客観的に捉え、課題について考え報告することができる。	
予習復習の内容	学習内容を振り返る		

科目名	子どもの理解と援助				担当者	山本 信 (実務家教員)						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または email:yamamoto.makoto@seiwa.ac.jp への連絡 (学籍番号・氏名記載必須) とする。										
専門的 学習成果	①	子どもの生活・遊び、環境との関連から子どもを理解することの意義を説明できる。										
	②	発達および学びのアセスメントに関する原理を理解し、保育者の役割や基本的な態度について述べるができる。										
	③	アセスメント結果から、子どもの課題の背景を捉え、仮説を立てることができる。										
	④	子ども自身、クラス集団、環境、保育体制など多様な支援のあり方について理解し、具体的な支援の方法を挙げるができる。										
	⑤	子ども理解に基づいた保育目標、全体的な計画を立案する視点を身につけ、子どもの姿に合わせた計画の立案について討議できる。										
汎用的 学習成果	(1)	子ども理解に必要な専門的知識・技能について理解し、他者と協働しながら子どもの理解・支援について深く考え、表現することができる。(専門的学習成果①④⑤)										
	(2)	子どもの育ちを支える者としての保育者の役割を理解し、幅広い教養とともに、現代社会に生きる子どもの課題や、自らの力を地域社会の中で活用する方法について考え、討議することができる。(専門的学習成果②③⑤)										
授業概要	子どもの生活および遊びを通じた学びの課程において支援を必要としている子どもの特徴と、その背景を理解するためのアセスメントについて学ぶ。また、これらを踏まえ、子どもの姿を想像しながら、子ども自身およびクラス集団への支援、環境と保育体制を通じた支援、保護者支援など、複数の観点から子どもの特徴に応じた総合的な支援のあり方について学ぶ。そして、子ども理解に基づいた保育目標、全体的な計画についてグループワークを通じて考察し、理解を深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		小テスト	20	小テスト (2回) : 正答率に応じて評価を行う (各10点)								
		ワーク課題	10	ワーク課題 (2回) : 授業内容を踏まえ、テーマに沿ったワークシートの評価を行う (各5点)								
		グループワーク	30	グループワーク (3回) : テーマに基づいた発言や議論への参加姿勢 (5点) と発表内容の評価 (5点) を行う。								
汎用的 学習成果	確認試験	40	これまでの学習内容に基づき、学習習熟度に関してのテストを実施し、評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	本郷一夫編著	『「気になる」子どもの社会性発達の理解と支援：チェックリストを活用した保育の支援計画の立案』				北大路書房						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』(解説書含む)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(解説書含む)										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(解説書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①授業は、テキスト・参考資料・配付資料を中心に進める。また、授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。 ＜事前学習(週30分程度)＞：テキスト・参考文献を読み、専門用語の理解をはじめ、各回の学習内容について予習を行うこと。また、自身の実習等の経験や学習内容と関連付けながら深く考える機会を多く持つこと。 ＜事後学習(週30分程度)＞：毎回の授業の内容について復習を行い、理解を深めること。また、新聞・ニュース等で得られた情報と学習内容を結びつけながら、自分の考えを言葉や文字で表現できるようにし、レポートの作成等につなげること。 ②フィードバックの方法については、以下の通りとする。 ＜小テスト＞テストの実施後に解答・解説を行う。 ＜ワーク課題＞提出後2週間以内を目安に、評価のポイントを含めたコメントとともに返却する。 ＜グループワーク＞グループワークへの参加姿勢や発表内容について、次回の授業において評価のポイントを含め、フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価									
1回	授業内容	子ども理解に基づく保育の意義	＜ワーク課題・グループワーク＞ 「気になる」子の理解と支援について、これまでの自身の経験もふまえて、具体的な子どもの姿や行動の背景についてまとめていく。 ワーク課題は3回目の授業終了時に提出。 グループワークは、議論等への参加姿勢と発表(第4回の授業内容を予定)内容の評価を合わせて行う。									
	学習成果	保育現場において「子どもを理解すること」について、その意義も含めて、具体的な言葉で説明することができる。										
予習復習の内容	指針・要領を読み、「保育・教育」とは何かについて理解しておくこと。これまでの実習や子どもとのかかわりの中で、「子どもを理解すること」の意義と具体的な保育者の役割について自分の言葉で説明できるようにしておくこと。											
2回	授業内容	保育場における支援を必要とする子どもの特徴										
	学習成果	支援を必要とする子どもの姿を具体的にイメージし、他者と協働することで理解を深め、その特徴について具体的に説明することができる。										
予習復習の内容	「支援が必要な子ども」の特徴について、教科書や自身の経験から、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。グループワークを通して得た情報や学びを他者と共有できるようにしておくこと。											
3回	授業内容	保育場における支援を必要とする子どもの理解と共感的関わり										
	学習成果	様々な特徴を持つ子どもの行動について話し合い、行動の要因や必要な支援について整理するとともに、保育者に必要な共感的関わりについて説明することができる。										
予習復習の内容	発達障害や「気になる」子どもについての基本的な特徴や、行われている支援について調べ、理解しておくこと。他者との話し合いを通して、「共感的関わり」について考え、自らの言葉で表現できるようにしておくこと。											
4回	授業内容	子ども理解と保育者の援助										
	学習成果	支援を必要とする子どもに対し、保育現場において保育者が具体的にどのような支援をすることができるかについて討議し、仮説を立てた上で他者に向かって説明・表現することができる。										
予習復習の内容	グループワークを通して自分と他者の意見を合わせ、まとめておくこと。発表すること・見ることを通し、自分の深い学びへとつなげていくこと。											
5回	授業内容	発達と生活の連続性と援助										
	学習成果	子どもが生活している日常場面において発達を捉えていくことの重要性について説明することができる。										
予習復習の内容	日常場面、非日常場面において発達を促すために具体的にどのような援助が行われているかについて調べておくこと。「社会性発達チェックリスト」の項目について理解しておくこと。											
6回	授業内容	アセスメントと子ども理解										
	学習成果	アセスメントの定義や代表的な方法について理解し、アセスメントの意義(なんのためにアセスメントをするのか)や、どのように支援につなげていくかについて説明することができる。										
	予習復習の内容	アセスメントの定義と、代表的なアセスメントの手法について調べておくこと。保育現場においてアセスメントをどのように進めていくかについて具体的なイメージを持ち、支援にどのようにつなげていくか、自分の言葉で説明できるようにすること。										
7回	授業内容	発達・学びのアセスメント①観察法										
	学習成果	アセスメントの手法としての観察法の基礎について理解し、自分の経験をもとに保育現場における観察の仕方の改善について具体的に述べるができる。										
	予習復習の内容	観察法は、具体的にどのように行われるか調べておくこと。保育現場における観察の仕方や焦点の当て方など、実習での経験をふまえて、子どもを観察する上で必要となることについて具体的に述べられるようにしておくこと。										
8回	授業内容	発達・学びのアセスメント②記録										
	学習成果	記録の仕方や記録に必要な技術等について理解し、自身や他者の取った記録の良い点・改善点について述べるができる。										
	予習復習の内容	記録の種類や記録の取り方、また、何のために記録をするかについて理解しておくこと。子どもの姿(映像)を見て、ポイントを押さえた記録をすることができるよう準備をしておくこと。										
9回	授業内容	子ども自身、クラス集団への支援										
	学習成果	集団の持つ性質と個人の発達との関連について理解し、クラス集団をアセスメントする意義について説明することができる。										
	予習復習の内容	子ども自身のアセスメントと支援、クラス集団のアセスメントと支援の共通点と相違点について調べ、考えておくこと。実習の体験等から、クラス集団に対してどのような支援をすることができたかについてまとめておくこと。										
10回	授業内容	環境と保育体制を通じた支援										
	学習成果	子どもの行動の背景を理解し、事例を挙げながら子どもを取り巻く物的環境や人的環境を通じた支援について具体的に述べることができる。										
	予習復習の内容	環境と保育体制を通して支援する際に、子どもに大きな影響を与えうるものや、保育者が環境構成をするにあたり「変えやすいもの・変えにくいもの」について考え、まとめておくこと。										
11回	授業内容	保護者支援										
	学習成果	保育現場において実際に保護者支援がどのように行われているかについて、その重要性を踏まえて説明することができる。										
予習復習の内容	保護者支援が具体的にどのような目的でそのように行われているかについて理解しておくこと。保護者支援が子どもの発達支援とどのように関連し、影響を与えているかについて説明できるようまとめておくこと。											
12回	授業内容	子ども理解と保育目標										
	学習成果	子どもの発達状況や、本人・保護者の希望も含めた発達の見通しを持つことの重要性を理解し、養護と教育が一体となった具体的な保育目標をどのように立てていくかについて、自分なりの意見を持って議論することができる。										
	予習復習の内容	「一人一人の発達に合わせた保育目標」を立てるために、保育者には何が必要かについて考えておくこと。										
13回	授業内容	子ども理解と全体的な計画										
	学習成果	全体的な計画について理解し、全体的な計画の中で、具体的な子どもの姿や必要な支援をどのように反映させていくかについて議論することができる。										
	予習復習の内容	全体的な計画の基本的な形式や記述する内容について理解しておくこと。様々な環境や発達状況にある子どもを、全体的な計画の中でどのように位置付け支援していくことができるかについて常に考える意識を持ち続けることの重要性を理解し、実践につなげていくこと。										
14回	授業内容	専門機関、小学校との連携										
	学習成果	専門機関の役割や具体的な連携の仕方について理解し、小学校への就学を円滑なものにするために何が必要か、自分の考えを持って議論することができる。										
	予習復習の内容	専門機関は具体的にどのようなものがあり、どのような役割を果たしているかについて調べておくこと。障害の有無等に関わらず、就学に向けて保育の中でできることについて、実習の経験や自分の考えをもとに説明することができる。										
15回	授業内容	振り返りとまとめ										
	学習成果	これまで学んだことを統合し、一人一人の子どもを理解し支援していくために必要な保育者の知識や技術について具体的に説明することができる。										
	予習復習の内容	本講義のまとめとして、学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に関して具体的な評価を実施すること。										
確認試験	これまでの学習内容についての理解を計る ○1～15回の授業内容											

科目名	保育内容総論				担当者	小野真喜子・宮本美和子						
区分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail:onomakiko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する										
専門的 学習成果	①	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領の内容とつながりを説明できる。										
	②	乳幼児保育における見方・考え方を理解し、具体的な事例を挙げて説明ができる。										
	③	乳幼児期の発達、保育・教育の社会的背景及び歴史の変遷を踏まえ、総合的な指導の意義と教師の役割を理解し、説明できる。										
	④	保育計画、実践・観察・記録・評価・改善をつなげて理解し、説明が出来る。										
	⑤	子どもの実態に沿って保育の多様な展開を理解し、物や人との関わり観点から教材を考えることが出来る。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育内容全体の流れを理解し、実践につなげることが出来る。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者としての社会的役割を理解し、豊かな感性や理解力を持って子どもの実態に即した保育を行うことが出来る。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	保育者として実践計画を立て、実践し、省察し、さらに課題を持って新たに実践する力を養う。(専門的学習成果③④⑤に関連)										
授業概要	乳幼児期の保育内容についての理解を図り、保育内容を総合的に捉える視点を養う。また、5領域を通して総合的に指導するという考え方を理解する。実践事例を基に保育の意義と、保育者の役割を理解する。具体的な子どもの姿と関連付けながら、実際に指導計画を作成することを通して、指導計画と実践との関わりを理解し、その過程で乳幼児の観察・記録・評価・改善のあり方、教材の検討を行い、保育の計画・実践について総合的に学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	毎回の授業内容についてミニレポートにまとめて提出する。								
		小テスト	20	5領域の内容とねらいについての理解								
	レポート	50	子どもの姿を想定し、環境構成、活動の援助を理解して指導案を作成できているか									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は汎用的学習成果①で評価を行う。 (2) は汎用的学習効果②で評価を行う。 (3) は汎用的学習効果③④⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	佐藤 哲也 編		「子どもの心によりそう保育内容総論」							福村出版		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
	佐藤 哲也 編		「子どもの心によりそう保育課程論」							福村出版		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前学習として、教科書、配布プリントを前もって読んで授業に臨むこと。また事後学習として授業後に学びや質問をミニレポートにまとめて提出する。その内容を評価の対象とするので毎回しっかりとまとめて提出すること。 ②毎回のレポートに対するフィードバックは毎回の授業で解説していく。最終的にまとめのレポートも作成し、評価の対象とする。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとに保育内容総論の意義について	
	学習成果	幼稚園教育要領と保育所保育指針をもとに保育内容総論の授業について理解する	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読みその内容を理解する。ガイダンスの内容を踏まえて学習計画を立てる。	
2回	授業内容	乳幼児期における養護及び教育が一体的に展開する保育内容について	
	学習成果	乳幼児期における養護及び教育が一体的に展開する保育内容について理解する	
3回	予習復習の内容	授業を振り返り学びや疑問点をミニレポートにまとめる。用語と教育を意識した保育を考えてみる	
	授業内容	保育内容の歴史の変遷とその社会的背景について	
	学習成果	保育内容・保育制度の変遷を理解すると主に現在の保育内容へのつながりを理解する。	
4回	予習復習の内容	保育の歴史について身近な存在である家族の幼稚園、保育所での思い出などを会話を通して調べてみる	
	授業内容	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的考え方について	
5回	学習成果	子どもの発達や生活に即した保育内容の基本的考え方について理解する	
	予習復習の内容	授業を振り返り学びや疑問点をミニレポートにまとめる。子どもの発達に即した保育について考えてみる	
6回	授業内容	子どもの主体性を尊重し、遊びや生活、環境を通じた総合的な指導と保育内容の展開	
	学習成果	子どもの主体性を尊重した遊びや生活、環境を通じた総合的な指導と保育内容の展開の実際について理解する	
7回	予習復習の内容	授業を振り返り学びや疑問点をミニレポートにまとめる環境を通じた保育の具体例を考えてみる	
	授業内容	個と集団の発達を踏まえた保育内容の展開と指導について	
8回	学習成果	個と集団の発達を踏まえた保育内容の展開と指導について理解する	
	予習復習の内容	授業を振り返り学びや疑問点をミニレポートにまとめる。個と集団の両方を大切にすることについて具体例を考えてみる	
9回	授業内容	生活や発達の連続性を考慮し、家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育内容について	
	学習成果	生活や発達の連続性を考慮し、家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育内容について理解する	
10回	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。生活や発達の連続性を小学校とのつながりの面からまとめる。	
	授業内容	子どもが行う活動と保育者の援助について	
11回	学習成果	子どもが行う活動と保育者の援助の仕方について理解する。	
	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。子どもの活動と保育者の援助について自分自身で考える。	
12回	授業内容	長時間保育、延長保育、特別な配慮を必要とする子どもの保育について	
	学習成果	長時間保育、延長保育、特別な配慮を必要とする子どもに対する保育者の援助の仕方について理解する。	
13回	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。保育者の援助の仕方について自分自身具体的に考える。	
	授業内容	多文化理解と共生を目指した多様な保育	
14回	学習成果	保育における多文化の存在、考え方を理解する。	
	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる保育計画における目的について活動と関連して考える。	
15回	授業内容	指導計画の作成 (1) 指導計画の意義と目的について	
	学習成果	指導計画を作成し、実践につなげるための具体的指導法のあり方を理解する。	
16回	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。指導法を具体的に言葉にして考える。	
	授業内容	指導計画の作成 (2) 指導計画作成と実際	
17回	学習成果	作成した指導計画を基に実践し、計画と実践による省察を行う。	
	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。実践により見出した課題をまとめる	
18回	授業内容	指導計画の作成 (3) 模擬保育	
	学習成果	模擬保育の振り返りから今後の課題を見つけ、次へ繋げることを理解する。	
19回	予習復習の内容	実践を振り返り改善点、課題をまとめる。	
	授業内容	指導計画の作成 (4) 保育の評価と改善の方法、情報機器の活用	
20回	学習成果	模擬保育の振り返りで得た課題をもとに最終指導案をまとめ入力完成させる	
	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。	
21回	授業内容	保育内容と小学校教育の接続およびスタートカリキュラム	
	学習成果	乳幼児教育と小学校教育への接続について理解する。	
22回	予習復習の内容	授業を振り返りミニレポートにまとめる。小学校教育への接続を意識した保育のあり方を考える	

科目名	子どもの健康と安全				担当者	尾 形 由美子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail : kimura.akiyo @ seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解し、説明することができる。										
	②	保育における健康及び安全の管理について具体的に理解し、説明することができる。										
	③	子どもの体調不良等に対して適切に対応するための方法について説明できる。										
	④	保育における感染症対策について具体的に理解し、実践することができる。										
	⑤	健康及び安全の管理の実施体制について具体的に理解し、適切な保健活動ができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる健康及び安全管理を踏まえた保育環境や援助について理解し、基礎的な技能を身につける。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの健康保持と体調不良に対する対応などの保育実践力を確実にする。(専門的学習成果③④に関連)										
	(3)	子どもの健康と安全の管理に関わる、職員間、他組織、地域等と協働する力を身につける。(専門的学習成果⑤に関連)										
授業概要	子どもの心身の成長発達を踏まえ、健やかな子どもの成長を支え安全な環境を提供するための保健活動のあり方と、安全管理について学ぶ。また子どもの疾病や障害のある子どもへの適切な対応についても具体的に学ぶ。感染症対策や救急処置について、保育者として必要な対応を習得する。さらに施設での事故防止及び健康安全管理への取り組み等の学習を通して、地域保健活動のあり方を理解し、他組織、地域等と協働する力を身につける。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	35	①5%、②10%、③10%、④10% 学習成果の達成度を評価する。								
		筆記試験	60	各30%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
	平常点	5	授業態度、グループワークへの参加状況の評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2) は専門的学習成果③④で評価を行う。 (3) は専門的学習成果⑤で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	今井七重		『子どもの保健Ⅱ』				(株) みらい					
	巷野悟郎		『子どもの保健』				診断と治療社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』				フレーベル館					
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』				フレーベル館					
内閣府・文科省・厚生労働省		『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』										フレーベル館
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。授業内容理解のため、事前学習として、教科書や事前に指示した資料をよく読んで理解しておくこと。特に授業内容に関連する部分については、事前に関係する文献を読み理解を深めておくこと(予習：週0.5時間程)。また、事後学習は、単元ごとにレポート提出及び小テストを実施しその内容を評価の対象とするので、復習をしっかりすること。授業で学んだことを「子どもの保健Ⅰ」、「乳児保育」のテキスト内容と照らし合わせ再確認の作業を行うこと(復習：週0.5時間程度)。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは実施後に解説を行う。 授業は、前期は実習中を除く8回、後期7回実施する。参考書は毎回持参すること。グループ活動では、各自積極的に授業に臨むこと。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保健活動の内容と保健計画及び保健活動の記録と評価を理解する。	レポート提出① 課題 「保育における保健活動の重要性を理解し、日常の健康観察のあり方を考察する」
	学習成果	年間保健活動の実際と、保健活動の重要性を理解する。	
	予習復習の内容	保育における保健活動の重要性を理解する。保育所保育指針、及び幼稚園教育要領等の関連部分を精読する。	
2回	授業内容	保育における健康観察。グループダイアログを実施し、実習施設で実施してきた自身の観察を見直し、実践力を高める。	レポート提出② 課題 「身体発育曲線を描き考察する」
	学習成果	保健的観点を踏まえた保育環境の整備と援助ができるようになり、健康観察実践力を高めることができる。	
	予習復習の内容	健康観察の実際を復習し、まとめてくる。実際に行ってきた健康観察を見直し、常に子どもの状態を把握できるようにする。	
3回	授業内容	健康診断について理解し、身体発育の実際を学ぶ。子どもの生活習慣と心身の健康について学ぶ。	レポート提出③ 課題 「保育施設での死亡事例をあげ、子どもの生命を守る保育者としてのあり方を考察する。」
	学習成果	子どもの成長発達を踏まえた生活習慣を理解し、適切な生活習慣の形成と発育測定ができるようになる。	
	予習復習の内容	1日の生活リズムと生活習慣のあり方を理解する。保育所保育指針・幼稚園教育要領等から保育者として大切な事項を整理し理解する。	
4回	授業内容	保育における健康及び安全管理①保育施設での死亡事故をあげ、グループワークする。	筆記試験① 8回後半で実施する ・アレルギー ・症状に対するケア
	学習成果	保育者の子どもの生命維持に対する使命を確認する。	
	予習復習の内容	「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ。	
5回	授業内容	保育における健康及び安全管理②危機管理についてグループワークする。	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	危機管理、災害対策について具体的に理解する。	
	予習復習の内容	実習園の危機管理の実際についてまとめてくる。	
6回	授業内容	体調不良に対する対応①アレルギー エピペンの使い方	レポート提出④ 課題 「ヒヤリハット事例について考察する」
	学習成果	アレルギー疾患に対する適切なケアを理解し実践することができる。	
	予習復習の内容	「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(23年3月)の理解	
7回	授業内容	体調不良に対する対応②発熱 腹痛 下痢等	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。	
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。	
8回	授業内容	体調不良に対する対応③痙攣 嘔吐等	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	症状に対する適切なケアを理解し対応することができる。	
	予習復習の内容	実習で経験した症例について、ケアの実際を省察する。	
9回	授業内容	保育における健康及び安全管理③実習中のヒヤリハット事例についてグループワークする。	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	衛生管理、事故防止の実際について具体的に理解し実践できる。	
	予習復習の内容	実習中のヒヤリハット事例をまとめる。「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(28年3月)を学ぶ	
10回	授業内容	救急処置の実際 VTR「子どもの保健・実習」視聴。子どもの救急蘇生法を学ぶ。	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	子どもの救急蘇生法を理解し、対応することができる。	
	予習復習の内容	子どもと成人の方法の違いを整理しておく。また身近なところにあるAEDの設置場所を確認しておく。	
11回	授業内容	子どもの事故と応急処置①応急手当(打撲・傷・鼻出血等)	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	応急処置の実際を理解し、対応することができる。	
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。	
12回	授業内容	子どもの事故と応急処置②応急手当と包帯・三角巾の使い方	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	応急処置の実際を理解し包帯・三角巾を使うことができる。	
	予習復習の内容	正しい応急手当の方法を整理しておく。	
13回	授業内容	感染症の予防と対策①衛生管理	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	施設内外の衛生管理の実際を理解し、実践できるようになる。	
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)について復習する。	
14回	授業内容	感染症の予防と対策②集団発生の予防と対応	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	集団発生の予防と発生時の対応が確実にできるようになる。	
	予習復習の内容	「保育所における感染症対策ガイドライン」(30年3月)を理解し、保育の場で行う感染予防が日常的に実践できるようにする。	
15回	授業内容	健康及び安全管理の実施体制 職員間・専門機関等との連携	筆記試験② 15回後半で実施する。 ・救急蘇生法 ・応急処置 ・感染症の予防 ・感染症発生時の対応 ・消毒の実際
	学習成果	個別的配慮の必要な子どもへの対応を地域保健の観点から支援できるようになる。	
	予習復習の内容	保育所保育指針第4章を予習復習する。	

科目名	社会的養護Ⅱ				担当者	ヤマザキ 剛						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		メールで受け付ける アドレス yamazakita1951@gmail.com										
専門的 学習成果	①	社会的養護について、定義、具体的内容、現状、課題、これからのあり方について説明できる。										
	②	子どもの権利擁護、子どもの発達の特徴、児童虐待の影響などについて論じることができる。										
	③	社会的養護児童の特徴を理解し、児童福祉施設に入所している児童に対する適切な対応を説明できる。										
	④	社会的援助技術の内容や方法、ケアマネジメントの理論や方法など説明できる。										
	⑤	事例検討の話し合いにおいて、参加し、討議ができるようになる。										
	⑥	児童福祉施設における保育士の資質や倫理について述べることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①②③④⑥に関連)										
	(2)	社会的養護の今日的課題やこれからのあり方を理解し、保育士として、児童福祉施設等の保育実践に生かすことができる。(専門的学習成果①②⑤⑥に関連)										
	(3)	保育者に必要とされる子どもの発達、社会的養護児童の特徴を理解し、保育実践力を高める。(専門的学習成果③④に関連)										
授業概要	社会的養護とは何か、要保護児童の実態、家庭養護と施設養護の違い、社会的養護の課題とこれからのあり方等について学ぶ。また、保育士として必要な愛着理論、子どもの発達、社会的養護児童の特徴、児童福祉施設に入所している児童の特徴についても学び、保育士として保育の実践に生かせるようにする。さらに、家族支援や児童福祉施設、教育機関などの連携に重要な社会的援助技術の方法、保育士が身につけるべき倫理や自らのメンタルヘルスの方法についても学び、保育士が燃え尽きないように自己コントロールの方法についても学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	全15回分の講義内容について筆記試験を行い、評価する。								
		レポート	40	演習のテーマを与えてレポートを5回提出させる。テーマに沿った評価をする(体裁、内容、エビデンス、論理性、独創性等)各8点。								
		平常点	10	授業の態度、関心、意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	(1)は専門的学習成果①②③④⑥で評価を行う。 (2)は専門的学習成果①②⑤⑥で評価を行う。 (3)は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	辰巳隆編集		『改訂 保育士をめざす人の社会的養護内容』							みらい		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①テキストを準備のうえ授業を受けること。授業は、テキスト、配付する参考資料等により進める。事前学習として、授業内容理解のため、テキストを読み予習をしていくこと。 ②小テスト及びレポートに対するフィードバックは、実施した次の授業で正解を示し、解説する。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	社会的養護の概要と歴史	
	学習成果	社会的養護の歴史を理解し、要保護児童とは何か、社会的養護とは何か説明できる。	
	予習復習の内容	戦後の社会的養護の歴史を理解し、現在の社会的養護の概要を理解する。	
	授業内容	児童福祉施設の子どもたち	
2回	学習成果	児童福祉施設の具体的内容と、入所している子どもたちの特徴を説明できる。	
	予習復習の内容	今日の養護体系、児童福祉施設の子どもたちについて理解する。	
3回	授業内容	里親制度の現状と課題	
	学習成果	里親制度の現状や課題、子どもにとって家庭養護の意義を説明できる。	
	予習復習の内容	里親を増やすためには、里親支援が欠かせないことを理解する。	
	授業内容	新しい施設養護の理念	
4回	学習成果	児童福祉施設に入所している児童や保護者に対して、どのように対応したらよいか説明できる。	
	予習復習の内容	事例により施設養護の現状と問題点について理解する。	
5回	授業内容	施設養護におけるプロセス理解	
	学習成果	養護プロセスの意味や内容について説明できる。	
	予習復習の内容	児童福祉施設入所前後、インケア、リービングケアについて理解する。	
	授業内容	障害児入所施設における基本的な援助	
6回	学習成果	障害児者の施設援助や地域生活援助を学び、ノーマライゼーションを説明できる。	
	予習復習の内容	障害児施設において保育士が行わなければならない援助、支援を理解する。	
7回	授業内容	こころの援助(1)	
	学習成果	児童が発達する上で重要な愛着形成、分離個体化等の説明ができる。	
	予習復習の内容	子どもの心理的発達を理解し、施設入所児童に対する適切な関わり方を学ぶ。	
	授業内容	こころの援助(2)	
8回	学習成果	虐待等心的外傷を受けた子どもの特徴を理解し、適切な対応ができる。	
	予習復習の内容	記憶や子どもの心の特徴を理解する。	
9回	授業内容	子どもとのコミュニケーション	
	学習成果	社会的養護児童の特徴を理解し、子どもとの効果的なコミュニケーションを学ぶ	
	予習復習の内容	子どもとよい関係を築くコミュニケーション	
	授業内容	地域・学校との関係づくり	
10回	学習成果	児童福祉施設と地域・学校などとの関係づくりの重要性、その方法を説明できる。	
	予習復習の内容	地域や学校との連携を進める上での留意点などを理解する。	
11回	授業内容	社会的養護児童の自立への支援	
	学習成果	自立の意味、自立のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	社会的養護児童に対する自立支援の意義を理解する。	
	授業内容	自立への支援	
12回	学習成果	自立の意味、自立のあり方について説明できる。	
	予習復習の内容	社会的養護児童に対する自立支援の意義を理解する。	
13回	授業内容	児童福祉施設の運営管理	
	学習成果	児童福祉施設におけるチームワークの重要性について説明できる。	
	予習復習の内容	チーム形成のポイント、チームづくりが難しいときの対応の仕方などを理解する。	
	授業内容	児童福祉施設における保育士の資質と倫理	
14回	学習成果	「援助者としての自分の資質を知る」演習を通して理解する。	
	予習復習の内容	児童福祉施設における保育士の役割、自分の特徴などを理解する。	
15回	授業内容	保育士のメンタルヘルス	
	学習成果	保育士のバーンアウト、感情労働について説明できる。	
	予習復習の内容	保育士の業務におけるメンタルヘルスの重要性について理解する。	

科目名	子育て支援				担当者	加藤和子						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。										
専門的 学習成果	①	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解し、説明できる。										
	②	保育相談支援の基本となる「子ども・子育て支援新制度」や地域の社会資源の活用や関係機関等の連携・協力について説明できる。										
	③	保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	④	障害を持つ子どもの保護者や、経済問題を抱える保護者、孤立する保護者など、支援の対象となる保護者を理解し、実践でいかすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	子育てをめぐる環境の厳しさを理解し、保育士の行う子育て支援における社会的役割を自覚して保護者の理解や支援ができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	子育て支援に必要とされる専門的知識と基礎的な技法を実際の展開をもとに習得し、実践につなげることができる。（専門的学習成果③に関連）										
	(3)	保育所等及び地域における子育て支援の実態を理解し、保育士として子育て支援の役割を探究し、他者と協働して地域社会でいかすことができる。（専門的学習成果②③④に関連）										
授業概要	子育て支援は、子どもの豊かな育ちを守り、実現するために欠かすことのできない保育士の専門性を背景とした実践活動である。子育て支援という対人援助を中心とした技術においては、その前提として保護者の子育てを通じた自己実現に向けた深い理解と洞察、専門職としての倫理が必要とされる。本講義では、実践に向けた理解を促進することを目標とし、事例を通してその概要を学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	60	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		小テスト	20	各10%を2回実施。60%以上の得点を合格点とする。								
		他	20	ワークへの取り組みを評価する。各回5%を4回実施。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②で評価する。 (2) は専門的学習成果③で評価する。 (3) は専門的学習成果②③④で評価する。											
テキスト 等	著者・編者名		書名							出版社名		
	小田豊監修		『保育士養成課程 保育相談支援』							光生館		
参考書 参考文献	著者・編者名		書名							出版社名		
	大日向雅美		『子どもを愛せなくなる母親の心がわかる本』							講談社		
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①日常生活の中で新聞・テレビなどから積極的に子育てに関する情報を得ること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニツレポの提出を促し、次の授業で全体に向けてフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	子育て支援における保育士の専門性と専門職の倫理		小テスト（第5回授業後半で実施する） ・現代社会における子育て環境 ・保育士の行う子育て支援の専門性 ・子育て支援における保育士の役割 ・ソーシャルサポート ・保育相談支援における相談技術
	学習成果	家族や家庭の持つ機能、子育てについて生涯発達の視点から理解する。専門職の倫理について説明できる。		
予習復習の内容	生涯発達の視点から子育て支援について理解する。守秘義務と専門職倫理について説明できるようにしておく。			
2回	授業内容	「子ども・子育て支援新制度」と子育て支援		
	学習成果	現代社会における子育て環境について理解し、子育て支援の意義について説明できる。		
予習復習の内容	「子ども・子育て支援新制度」について説明できるようにしておく。			
3回	授業内容	保育士の行う子育て支援の意義と役割		
	学習成果	現代社会における保育ニーズの多様化と保育士の行う保育相談支援の必要性を説明できる。		
予習復習の内容	子育てが困難とされる現代社会の背景を理解し、保育士の役割を説明できるようにする。			
4回	授業内容	ソーシャルサポートとしての保育士による子育て支援		
	学習成果	家族の発達、ひとり親家庭、ファミリーサポート、次世代育成の必要性について説明できる。		
予習復習の内容	家族の形態や価値観の多様化について理解し、ファミリーサポートについて説明できるようにしておく。			
5回	授業内容	保育士の行う子育て支援：相談技術		
	学習成果	ケースワークの展開、記録の手法、評価について説明できる。		
予習復習の内容	ケースワークのプロセスと記録の手法について説明できるようにしておく。			
6回	授業内容	保育士の行う子育て支援：職員間の連携・協働		小テスト（第10回授業後半で実施する） ・子育て支援における連携・協働 ・地域資源の活用と専門機関との連携 ・ソーシャルサポートとは ・保育所・地域子育て支援事業・児童養護施設における子育て支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンス
	学習成果	子育て支援における職員間の連携・協働について理解し、重要性と留意点について説明できる。		
予習復習の内容	カンファレンスの内容と重要性について説明できるようにしておく。			
7回	授業内容	地域資源の活用と専門機関との連携		
	学習成果	専門機関の種類や地域資源について理解し、連携の重要性と留意点について説明できる。		
予習復習の内容	専門機関の種類と職種について説明できるようにしておく。			
8回	授業内容	保育所における支援		
	学習成果	保育所における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。		
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。			
9回	授業内容	地域子育て支援事業における支援		
	学習成果	地域子育て支援事業における支援の留意点・計画・評価について説明できる。		
予習復習の内容	地域の子育て支援における留意点やプログラムについて説明できるようにしておく。			
10回	授業内容	児童養護施設における支援		
	学習成果	児童養護施設における保護者支援の留意点・支援計画・評価・カンファレンスについて説明できる。		
予習復習の内容	支援計画と評価、カンファレンスについて理解し、説明できるようにしておく。			
11回	授業内容	事例検討：保育所		グループワークへの参加態度を評価する。 各回5%4回実施
	学習成果	保育所の事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して保育所における支援について理解し、説明できるようにしておく。			
12回	授業内容	事例検討：地域子育て支援センター		
	学習成果	地域子育て支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して地域子育て支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。			
13回	授業内容	事例検討：障害児施設等		
	学習成果	児童発達支援センターの事例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して児童発達支援センターにおける支援について理解し、説明できるようにしておく。			
14回	授業内容	事例検討：児童養護施設		
	学習成果	児童養護施設の実例検討を通して、支援内容と方法、技術について具体的に説明できる。		
予習復習の内容	事例を通して児童養護施設における支援について理解し、説明できるようにしておく。			
15回	授業内容	子育て支援における課題と保育士の果たす役割		
	学習成果	子育ての社会化の必要性に関する理解を踏まえ、子育て支援における課題と保育士の役割について自らの考えを説明できる。		
予習復習の内容	子育ての社会化が必要とされている背景を理解する。課題と保育士の役割について説明できるようにしておく。			

科目名	保育実習Ⅰ（保育所）				担当者	ササキタカヒロ 佐々木貴弘 ・ ナカジマ メグミ 中島 恵 ・ イワブナ セツコ 岩淵 摂子							
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	通年	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。											
専門的 学習成果	①	保育所の役割や機能を理解し、記述することができる。											
	②	観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深め、考察できる。											
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び保護者への支援について総合的に説明できる。											
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。											
	⑤	保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。											
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）											
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）											
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）											
授業概要	保育所実習を通して、保育所の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども理解を深める。保育の実際に接し、子どもとの関わりを通して乳幼児の発達や健康・安全への配慮、環境等の工夫と保育所等における保育の意義についての理解を深める。また、保育課程と指導計画、記録について理解し保育の実際を学ぶ。実践を通して、保育士間の連携、保護者支援の在り方、地域との連携、保育士の役割と倫理について学ぶ。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（%）	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート											
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。									
		実習評価	80	保育所実習Ⅰにおける、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	実習日誌等総合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。										
	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④により評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名						
			『教育・保育実習ガイドブック』				聖和学園短期大学保育学科						
				『保育実習の手引き』				宮城県保育実習連絡協議会編					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名						
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』				フレーベル館						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習として、保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	事前オリエンテーション	10日間日々の実習のねらいを立て、実習に臨む。また日誌に、子ども、保育士、実習生の活動の記載をする。また、観察場面や実際に子どもと関わり考察したことを日誌に記述する。担当保育士等からの助言、評価票での評価となる。
	学習成果	保育所の概要の理解と、実習中の諸注意を把握し日誌に記述できる。	
予習復習の内容	保育所の概要を調べる。		
	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）0歳児	
2回	学習成果	0歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	0歳児の特徴の理解		
3回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）1歳児	
	学習成果	1歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	1歳児の特徴の理解		
4回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）2歳児	
	学習成果	2歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	2歳児の特徴の理解		
5回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）3歳児	
	学習成果	3歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	3歳児の特徴の理解		
6回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）4歳児	
	学習成果	4歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	4歳児の特徴の理解		
7回	授業内容	子ども理解（子どもの発達の特徴を知る）5歳児	
	学習成果	5歳児の特徴を捉えた関わりと日誌の記載	
予習復習の内容	5歳児の特徴の理解		
8回	授業内容	クラスの理解	
	学習成果	一人ひとりの子どもが集まった集団としてのクラスについて理解する。	
予習復習の内容	保育者のクラス運営の観察		
9回	授業内容	子どもへのかかわりの理解（援助の実際）	
	学習成果	配属クラスでの実際の子どもとの関りと考察を日誌に記載する。	
予習復習の内容	保育士の動き（関わり）の観察や質問		
10回	授業内容	指導計画についての学習	
	学習成果	全体の計画内容の理解	
予習復習の内容	保育課程の理解		
11回	授業内容	指導計画の部分的な立案	
	学習成果	生活の一部分（絵本の読み聞かせなど）の指導案立案	
予習復習の内容	保育課程の理解		
12回	授業内容	子どもへのかかわりの実際	
	学習成果	日誌での省察・振り返り ねらいに基づく記述	
予習復習の内容	ねらいの理解		
13回	授業内容	保育士の動き（関わり）を見据えた、実習生としての働き	
	学習成果	状況に応じた仕事をみつけて動くことができる	
予習復習の内容	保育士の職務内容の理解		
14回	授業内容	保育の環境の整備	
	学習成果	保育に必要な素材等の整備ができる	
予習復習の内容	食事、排泄、睡眠、清潔に必要な環境整備の理解		
15回	授業内容	保育所実習Ⅰの振り返り	
	学習成果	自己の課題を明確にした振り返りを日誌に記述し、反省会で自分の言葉で述べるができる。	
予習復習の内容	自己の実習の課題の理解		

科目名	保育実習Ⅰ（施設）				担当者	加藤 和子・佐藤万利子・山本 信・君島 智子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	通年
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	短大のメールアドレス、および巡回訪問での直接のやりとりで実施する。											
専門的 学習成果	①	福祉施設の役割や機能を理解し、記述することができる。										
	②	観察や子どもと、利用者の関わりを通して子ども、利用者への理解を深め、考察できる。										
	③	既習の学習を踏まえ、子ども及び利用者への支援について総合的に理解する。										
	④	保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、計画の部分的な立案を実践する。										
	⑤	施設保育士の業務内容や職業倫理について理解し、行動する。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる知識や技術を習得し、自覚をしながら子どもの理解や支援ができる。（専門的学習成果①②③）										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、主体的、積極的行動実践ができる。（専門的学習成果②③⑤）										
	(3)	自己の課題を見出し、省察し、反省を踏まえて学び続けることができる。（専門的学習成果④）										
授業概要	施設実習を通して、福祉施設の役割と機能について学び既習の学習を踏まえながら、さらに子ども、利用者理解を深める。支援の実際に接し、子ども、利用者との関わりを通して障害の理解や健康・安全への配慮、環境等の工夫と福祉施設における保育士の役割について理解を深める。また、支援と指導計画、記録について理解し施設保育士の実践を学ぶ。実践を通して、職員間の連携、保護者支援の在り方、地域との連携、保育士の倫理について学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		レポート	10	事前事後指導における、各種提出物（事前学習、提出書類、自己評価、報告書など）にて総合的に評価する。								
		実習評価	80	実習における、巡回指導報告、並びに、実習先からの外部評価にて総合的に評価する。								
実習日誌等総合評価	10	事前事後指導などへの取り組み、実習時の実習日誌内容などを総合的に評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果（1）（2）（3）については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 （1）は専門的学習成果①②③により評価を行う。 （2）は専門的学習成果②③⑤により評価を行う。 （3）は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
		『教育・保育実習ガイドブック』				聖和学園短期大学保育学科						
		『保育実習の手引き』				宮城県保育実習連絡協議会編						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	厚生労働省	『保育所保育指針解説』				フレーベル館						
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目では時間外学習として、『保育所保育指針』『保育実習の手引き』の内容をよく理解しておくこと。また、ガイダンス内で示される指導案の作成等の課題に取り組むこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。それを基に教材研究など自主的に学びを発展させるようにすること。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	観察実習と利用者理解	
	学習成果	課題に基づき、子ども、利用者の姿を観察し利用者理解につなげることができる。	
2回	予習復習の内容	課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。	
	授業内容	参加実習および指導案の作成	
3回	学習成果	参加実習を行う中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。	
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。	
4回	授業内容	部分実習を通じた指導案の実践および自らの保育の改善	
	学習成果	子ども、利用者との関わりにおいて改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。	
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。	
5回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善	
	学習成果	実習全体を通じた自らの学習課題について具体的に挙げることができるとともに、他者と共有・討議することができる。	
6回	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。	
	授業内容		
7回	学習成果		
	予習復習の内容		
8回	授業内容		
	学習成果		
9回	予習復習の内容		
	授業内容		
10回	学習成果		
	予習復習の内容		
11回	授業内容		
	学習成果		
12回	予習復習の内容		
	授業内容		
13回	学習成果		
	予習復習の内容		
14回	授業内容		
	学習成果		
15回	予習復習の内容		
	授業内容		
15回	学習成果		
	予習復習の内容		



科目名	保育実習指導 I B (2年)				担当者	カトウ 加藤 和子・カズコ 佐藤万利子・ヤマモト 山本 信・キミジマ 君島 智子						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業の前後に受け付ける。										
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、説明できる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの課題を明確にできる。										
	③	実習施設における人権と、守秘義務等について理解し、実践できる。										
	④	観察、記録の方法や内容について具体的に理解し、実践につなげることができる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、新たな課題や学習目標を明確にし、実践につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能の習得を踏まえ、保育実習の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にして実践につなげることができる。(専門的学習成果①②④に関連)										
	(2)	人権と守秘義務等の専門職倫理について理解し、保育者の社会的役割を自覚して支援につなげることができる。(学習成果③に関連)										
	(3)	実践を振り返り自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(学習成果⑤に関連)										
授業概要												
実習の意義や目的を明確にするとともに、保育実習を行う上で必要な知識、観察や記録の方法および姿勢を獲得する。また、保育実習へ向けた目的意識と意欲を高める。観察実習・見学を振り返ることを通して、保育実習へ向けた授業などを通じて学びを深め、課題を明確にする。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	事前事後指導における、各種提出物（事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等）で総合的に評価する。								
		実習評価	30	実習（保育所・施設実習）における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。								
	平常点	40	事前事後指導、事前事後学習への取り組みなどを総合的に評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価で評価する。 (1) は専門的学習成果①②④で評価する。 (2) は専門的学習成果③で評価する。 (3) は専門的学習成果⑤で評価する。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	聖和学園短期大学保育学科		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会編		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	厚生労働省		『保育所保育指針』（平成29年3月告示）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）									
		(解説書、関連図書含む)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①事前に保育所保育指針の内容をよく理解しておくこと。また、関係する文献を調べるなどして、保育所保育、障害児保育、子育て支援について理解を深める事。保育実習 I（施設）については、実習施設の法的根拠、機能、役割、子ども、利用者について理解し、実習課題と目標を明確にできるようにしておく。(予習：週2時間程度)。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習：週2時間程度)。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習・保育実習指導について(復習)	・事前指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、レポート等)評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	保育士資格取得に係る保育実習と保育実習指導の内容(実習日数、科目単位数)を理解し、全体像を説明できる。	
	予習復習の内容	指定保育士養成施設指定基準を読み、理解しておく。	
2回	授業内容	保育実習 I (保育所実習)・保育実習 I (施設実習)の意義と目的	
	学習成果	保育実習 I (保育所実習)・保育実習 I (施設実習)の意義と目的を理解し、説明できる。	
	予習復習の内容	保育実習 I (保育所実習)・(施設実習)の意義と実習の流れ、目的、概要を理解しておく。	
3回	授業内容	実習生としての心構え	
	学習成果	実習生としての心構え、マナー、服装、言葉遣い、体調管理、お礼状の書き方等について理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	実習において基本となる社会人としての心構え、マナー等を調べて日常生活で実践する。	
4回	授業内容	実習の事前準備	
	学習成果	実習生調査、細菌検査証明書、誓約書等、実習に必要な手続き書類の作成、準備ができる。	
	予習復習の内容	実習に必要な事務手続きを確認し、準備できるようにしておく。	
5回	授業内容	事前訪問(実習打ち合わせ)について	
	学習成果	事前訪問の手順と留意点、準備、確認事項の検討、訪問後の活動を理解し、実践できる。	
	予習復習の内容	訪問日の検討から始まる実習打ち合わせについて、事前に整理理解しておく。	
6回	授業内容	保育実習 I (保育所実習)の目的、内容、実際	・事前事後指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等)評価する。 ・実習(保育所実習)における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	保育所実習の目的、内容、子どもの発達、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	実習ガイドブック、保育所保育指針、全国保育士会倫理綱領を読み、実習の目的、段階等について説明できるようにしておく。	
7回	授業内容	保育実習 I (保育所実習)の課題の明確化	
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。	
	予習復習の内容	保育所について今まで学んだ知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。	
8回	授業内容	実習記録について	
	学習成果	保育における記録の意義と目的を理解し、記録の技法を身につけ実践できる。	
	予習復習の内容	専門行為としての記録の意義と目的、記録の基本について理解し、実践できるようにしておく。	
9回	授業内容	実習における指導案の作成	
	学習成果	実習における指導案作成の意味を理解し、保育の構想力・実践力の向上につなげることができる。	
	予習復習の内容	指導案が保育課程の目標を具体化する指導計画であることを理解し、作成できるようにしておく。	
10回	授業内容	保育実習 I (保育所実習)の振り返りと課題の明確化：ゼミ	
	学習成果	保育実習 I (保育所実習)の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。	
11回	授業内容	保育実習 I (保育所実習)の振り返りと課題の明確化：実習報告会	
	学習成果	実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。	
	予習復習の内容	実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。	
12回	授業内容	保育実習 I (施設実習)の目的、内容、実際	・事前事後指導における、各種提出物で(事前学習課題、実習課題、自己評価、レポート等)評価する。 ・実習(施設実習)における、実習施設による評価、自己評価、専任教員の評価で総合的に評価する。 ・事前指導、事前学習への取り組みなどで総合的に評価する。
	学習成果	施設実習の目的、実習施設の種別、法的根拠、役割と機能、子ども・利用者の理解、1日の流れ、実習の段階を理解し、説明することができる。	
	予習復習の内容	実習ガイドブック、児童福祉法、障害者総合支援法、運営指針等を読み、実習の目的、実習施設の役割等について説明できるようにしておく。	
13回	授業内容	保育実習 I (施設実習)の課題の明確化	
	学習成果	これまで学んできた知識、技術と事前学習、事前打ち合わせの知識を踏まえ、実習課題・目標を設定できる。	
	予習復習の内容	これまで学んできた知識と技術を整理し、実習課題と目標を設定できるようにしておく。	
14回	授業内容	保育実習 I (施設実習)の振り返りと課題の明確化：ゼミ	
	学習成果	保育実習 I (施設実習)の学びを共有し、自己評価を通して課題を明確化し、実践にいかすことができる。	
	予習復習の内容	グループで学びを共有し深める。自己評価を通して課題を明確にしておく。	
15回	授業内容	保育実習 I (施設実習)の振り返りと課題の明確化：実習報告会	
	学習成果	実習報告書の作成を通して実習の総括を行い、学びを後輩に伝えることができる。	
	予習復習の内容	実習報告書の作成を通して実習を振り返り、ポイントを押さえて後輩にわかりやすく伝えることができるようにしておく。	

科目名	保育・教職実践演習（幼稚園）				担当者	加藤和子・中島恵						
区 分	必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		ゼミ担任のオフィスアワー及び e-mail に連絡する。オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。										
専門的 学習成果	①	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを通じて自らの課題を見つけ、解決していく力を身に付け、実践することができる。										
	②	これまで学んだ保育に関する学習を総合化し、保育実践力を身につけ、他者と共同しながら実践発表ができる。										
	③	コミュニケーション力や対人関係の人的総合力を高め、グループ活動や保育実践ができる。										
	④	事例研究を通して保育に関する知識と理解を深め保育者としての資質向上を図ることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者として必要とされる幅広い教養を身に付け、自ら課題を見出すことができ、学びに向かい探求することができる。（専門的学習成果①④）										
	(2)	保育者として他者と協調、協働し地域社会の中で主体的、積極的行動がとれる。（専門的学習成果②③）										
授業概要	実習など、これまでの学業を通して得られた自らの課題に向き合い、その解決に取り組む授業とする。保育の場における今日の課題を取り上げ、グループ討議・事例研究・ロールプレイング・フィールドワーク等多様な演習を通して学びを深めていく。具体的には、保育実践力・保護者理解とその連携・協力の重要性を学ぶ。さらには実習中に興味関心を持った事例について事例研究を行い、発表と討議の機会を持ちレポートにまとめることで、保育者となることの意欲を高めるとともに保育者の置かれている現状や果たすべき役割について学ぶ。また、1年生前期から実施している履修カルテを継続して作成し、その内容の点検を通して自らの資質能力を確認し、課題の明確化を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	50	エピソード記録からのテーマに沿ったレポート内容及び引用文献の利用により評価する。								
		発表	40	協働性や保育実践の発表の内容により評価する。								
		平常点	10	グループ活動やロールプレイへの取り組み、意欲、態度により評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『幼稚園教育要領』						フレーベル館			
			『幼稚園教育要領解説』									
			『保育所保育指針』									
			『保育所保育指針解説』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
			『保育実践研究抄録集』 聖和学園短期大学保育学科						聖和学園短期大学保育学科			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①子どもを取り巻く環境の変化に伴い、一人ひとりの発達段階と個々の状況に応じた教育・保育を構想・計画し、多様な能力の発達を支援できる保育者の育成を求められるため、新聞等を通じて様々な社会の出来事に関心を持つこと。特に事例研究では、文献等を読み込み乳幼児理解・教科に関する基礎知識を学ぶ。（予習2時間程度）事後学習としては、保育実践研究のレポートについてその都度フィードバックをするので、さらに文献を選択し、読み理解を深める（復習：週2時間程度）。 ②事例研究のロールプレイでは、学生同士の対話的なその後の発言から自己の課題を明確にし保育実践力につなげていく。実践研究レポートについては、ゼミ担任からその都度添削を受け、研究の手法を身につけながら完成させる。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーションと履修カルテの作成	
	学習成果	教職実践演習の内容を理解し、履修カルテを作成することができる。	
2回	予習復習の内容	2年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題について理解する。	
	授業内容	これまでの学習の振り返り	
3回	学習成果	履修カルテやこれまでの学習の振り返りを行い、自己の課題を示すことができる。	
	予習復習の内容	1年前期からの履修カルテを見直し、自己の課題および保育者としての課題について理解する。	
4回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(1) 保育者の役割・子どもに対する責任	
	学習成果	エピソード記録から考察した、保育者の役割や子どもに対する責任などについて説明できる。	
5回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(2) 幼児理解やクラス経営	
6回	学習成果	エピソード記録から考察した、幼児理解やクラス運営について説明ができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させておく。（日誌などを参照）	
7回	授業内容	事例研究「実習中のエピソードをもとにグループ討論」(3) 教科・保育内容等の指導力	
	学習成果	エピソード記録から考察した、教科・保育内容の指導力について説明ができる。	
8回	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選んでおく。	
	授業内容	事例研究発表とまとめ プレゼンテーション	
9回	学習成果	エピソード記録の内容を考察し、自分自身のテーマを取捨選択することができる。	
	予習復習の内容	エピソード記録内容の記載を充実させ、図書館で文献を選び、考察をする。	
10回	授業内容	実習中の保護者とのコミュニケーション	
	学習成果	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ、発表ができる。	
11回	予習復習の内容	実習中の保護者とのコミュニケーションについてまとめ記述しておく。	
	授業内容	ロールプレイングを通じた保護者理解	
12回	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保護者の状況や気持ちの理解ができる。	
	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
13回	授業内容	ロールプレイングを通じた保育者の役割理解	
	学習成果	事例に基づいたロールプレイを実施し、保育者の状況や気持ちの理解ができる。	
14回	予習復習の内容	ロールプレイを実施した後のレポートをまとめる。	
	授業内容	保育者の現状と役割 現職保育者の講話・ディスカッション	
15回	学習成果	保育者の現状と役割を理解し、自分自身の課題を明確にできる。	
	予習復習の内容	講話の内容をまとめ、自分自身の課題を含めてレポートを作成する。	
16回	授業内容	保育実践 フィールドワークを通して小学校教育との接続を理解する	
	学習成果	グループのメンバーと協働し、テーマに沿った指導計画立案と役割を遂行できる。	
17回	予習復習の内容	子どもの発達と興味に合わせた活動計画を立案する。	
	授業内容	保育実践研究作成 (1) 保育実践研究作成の意義と目的	
18回	学習成果	保育実践研究の意義と目的を理解し、レポート作成の作業ができる。	
	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
19回	授業内容	保育実践研究作成 (2) 保育実践研究作成の実際 研究の手法を学ぶ	
	学習成果	保育実践研究を、文献と照らし合わせながら考察を深めることができる。	
20回	予習復習の内容	図書館で文献を選ぶ。	
	授業内容	保育実践研究報告	
21回	学習成果	保育者のおかれている現状の理解や果たすべき役割について、保育実践報告としてまとめることができる。	
	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。	
22回	授業内容	資質能力の確認、まとめ 履修カルテの振り返りを通して学習成果の点検を行う	
	学習成果	履修カルテの振り返りを通して、保育者としての資質について課題を理解する。	
23回	予習復習の内容	実践研究レポートの作成。（抄録）	
	学習成果	実践研究レポートの作成。（抄録）	

科目名	ICT 演習				担当者	ア 部 よし江						
区 分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問や要望等については授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	ICT とは何かを説明できる。										
	②	保育所や幼稚園で ICT がどのように活用されているか説明できる。										
	③	保育所や幼稚園での ICT 利用法を考え、ICT の基礎的な技術を身につけて実践に活用できる。										
	④	幼児教育における ICT の効果やデメリットについて考え、授業や教材へ活用できる。										
汎用的 学習成果	(1)	パソコンの操作等に関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことができる。(専門的学習成果①②③)										
	(2)	社会で求められている情報活用の基礎力を身につけ、積極的に活用することができる。(専門的学習成果②③④)										
	(3)	代表的な ICT 機器 (パソコン、スマホ、タブレット等) の基本操作ができ、連携して活用する能力を身につけ、保育実務等に活用できる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	社会全般の情報化が急速に進み、パソコンだけではなくその他の情報機器が使いやすく進歩していく中で、パソコンの操作等に関する知識だけではなく、情報そのものを使いこなすことが不可欠になってきている。その中で必須となる基礎的な ICT 利活用力を身につけることを学ぶ。Office ソフトを使用しての保護者へのお知らせや日誌等のプリント作成だけではなく、ICT を利用した行事記録の作成、教材作成、授業への応用ができることを学ぶ。Office の Word、Excel、PowerPoint については日常的に使いこなしていることが前提で、授業では応用レベルの機能をいかに活用するかを学ぶ。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		小テスト	40	筆記試験・実技試験を2回実施し、評価を行う。								
		課題	30	指示、内容、提出、独創性で評価する。								
		平常点	30	授業および課題・グループワークへの態度・関心・意欲を評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果②③④により評価を行う。 (3) は専門的学習成果③④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名		出版社名								
			授業ごとに資料を配布する。									
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名		出版社名								
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①授業で作成した課題等は USB フラッシュメモリに保存するので、各自準備しておくこと。ICT に関する一般的な知識だけではなく、各自の実習先の保育所や幼稚園において ICT の利用や活用にあたる事例があったかどうか説明できるようにしておく。事後学習として、授業内で理解できなかったことについては次回までに調べて解決しておくこと。小テスト (筆記・実技) に向けた授業の復習をすること。 ②小テストは実施後に正解を示し、解説を行う。課題はグループ発表形式で実施するので、発表内容と合わせてフィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス。パソコンを使用し ICT についての情報収集。	小テスト①筆記：3回目に実施。 ICT に関する基礎知識。	
	学習成果	ICT、ネット検索、eメール、デジタルデータを理解し説明できる。		
2回	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。		
	授業内容	Word お知らせ文書の作成		
3回	学習成果	デジタルデータ (写真、スクリーンショット等) の活用ができる。		
	予習復習の内容	事前に指示される写真データを準備しておく。		
4回	授業内容	Excel 関数機能。		
	学習成果	複雑な計算方法を活用し、データの加工、集計結果を適切に表現する方法を理解する。		
5回	予習復習の内容	使用するデータを事前に入力し、準備する。		
	授業内容	Word・Excel データの共有		
6回	学習成果	Word 文書に Excel データ (表やグラフ) を活用できる。差し込み印刷ができる。		
	予習復習の内容	使用する Word 文書を指示に従い、事前に完成させておく。		
7回	授業内容	「動く絵本」の作成① Microsoft PowerPoint		小テスト②実技：5回目に実施。 Word・Excel・デジタルデータの 相互活用。
	学習成果	使用素材 (デジタルデータの取り込み、タブレットで絵を描く) を準備できる。		
8回	予習復習の内容	グループ毎に、絵本の内容や対象年齢、どのようなデータを使用するか話し合っておく。		
	授業内容	「動く絵本」の作成② Microsoft PowerPoint		
9回	学習成果	使用素材 (音楽データ) の編集ができる。		
	予習復習の内容	使用する音源 (ピアノ、歌等) をスマートフォンを使用し準備しておく。		
10回	授業内容	「動く絵本」の完成。 Microsoft PowerPoint		
	学習成果	「動く絵本」の音楽再生のタイミングや画面の切り替えを設定出来る。		
11回	予習復習の内容	読み方を繰り返し練習しておく。使用素材の著作権等について確認を行う。		
	授業内容	「動く絵本」作品の発表 Microsoft PowerPoint		
12回	学習成果	「動く絵本」作品発表と鑑賞、評価、グループ毎の成果を確認できる。		
	予習復習の内容	鑑賞する側の集中力が高まるような発表を目指し、グループ毎に入念なりハーサルを実施しておく。		
13回	授業内容			
	学習成果			
14回	予習復習の内容			
	授業内容			
15回	学習成果			
	予習復習の内容			

科目名	全体的な計画の作成と理解				担当者	上村裕樹						
区分	選択	1	単位	授業回数	8	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
				授業時間数	16	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、又は uemura.hiroki@seiwa.ac.jp への連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする										
専門的 学習成果	①	教育・保育における計画の作成の意義と役割について理解し、自ら説明することができる										
	②	乳幼児の発達段階に対して順序と方向性の正しい理解をもち、発達段階に即した計画の重要性について自ら説明することができる										
	③	子どもの実際の姿を捉え、保育の連続性や子どもの発達の連続性について理解位、見通しをもった保育を構想することができる										
	④	保育の構想に基づき、ねらいと意図をもった保育計画の作成に取り組むことができる										
	⑤	保育計画について、他者と協同的に改善に向けたカンファレンスを行うことができる										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育の必要性の高まりを理解し、実践において必要とされる知識や理論の基礎について自ら学びに向かい、得た内容について、説明、報告することができる										
	(2)	他者と協働的に学び合い、高め合うための方法を知り、実践することが出来るとともに、協働的な関係性の構築に向けて、自ら協力的に体制づくりに参加することができる										
	(3)	幅広い教養を身に着け、自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる										
授業概要	保育の現在社会における必要性とその役割を踏まえ、その中で求められる保育者の働きについて理解する。そして、保育者に必要とされる保育の連続性への理解や子どもの発達に対する正しい理解、子どもの実際の姿を観察し捉えるための保育者の視点についての理解を深める。これらに対する適切な理解を基として、保育におけるねらいや意図をもった計画の重要性と計画構想、立案の方法について知り、自らが言語化できるところまで学びを深める。その後、自らが構想する保育の活動について、計画・立案・作成に取り組む、他者と協働しながら改善に向けたカンファレンス（対話）を実践し、保育計画のブラッシュアップを図る。これらの一連の保育実践の仕組みについて理解するとともに、受講学生自らが取り組むことができるようになることを目指す。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		指導計画	35	作成した指導計画の提出の評価								
		報告書	40	授業内外における取り組みの報告書（提出状況（20）・内容（20））								
		ワーク	15	グループワークへの取り組み（参加・貢献）の評価								
発表 / 報告	10	各種課題や取り組み状況の発表や報告・プレゼンの評価										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果①・②・③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	厚生労働省	『保育所保育指針』（平成29年3月告示）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	<p>①準備学習等履修上の留意点：授業計画に従い、時間外学習を必ず行うこと。学習時間の自らの確保と保障は本講義受講において、必須とする。 指導計画に関わる構想・立案・作成・報告が本講義において必要となるため、正課時間外での受講者自身の学習は必須となる。指導計画作成に必要な学習教材への研究は、各自の課題として、取り組むこと。 授業計画において、時間外学習において示しているが、各回のみならず、8回分に該当する内容について、各自の学習進度に応じ、早い時期から複合的に取り組むことが必要であるため、学生自身の主体的な取り組みを期待する。</p> <p>②フィードバックの方法等：専門的学習成果の評価における評価内容のフィードバックの方法は、以下の通りとする。 ▶授業の中で取り扱うコメントペーパーに関する内容は、次回講義開始時にコメントへのフィードバックを行う。 ▶ワーク課題に関するフィードバックは、グループ課題は講義内でのハーベストと返却によりフィードバックとする。 評価基準の補足は、以下の通りであり、自己学習のフィードバックの際の参考とすること。 ▶グループワークやワーク課題に関しては、ワークを通して得られる成果のみならず、ワーク活動への参加を含めた活動のプロセスも同様に評価される。 ▶事前・事後の学習に伴う提出課題は、各個人での取り組みが必要となるため、その取り組みのプロセスについても同様に評価される。</p>											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育の計画への理解（全体的な計画と保育課程）	
	学習成果	全体的な計画と保育課程について理解し、自らの言葉で説明することができる	
	予習復習の内容	各要領・指針に記載されている内容について理解するよう読み込むこと ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
2回	授業内容	保育の計画への理解（指導計画（年→期→月→週→日→部分））	
	学習成果	指導計画の関係性と段階的な作成について理解し、自らの言葉で説明・構想することができる	
	予習復習の内容	各要領・指針に記載されている内容について理解するよう読み込むこと ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
3回	授業内容	指導計画の理解（ねらいと内容）	
	学習成果	指導計画におけるねらいと内容について理解し、適切なねらいの策定とそれに基づく内容の選定ができる	
	予習復習の内容	雑誌・書籍に紹介される保育活動に関する収集を行い、授業に持参すること ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
4回	授業内容	指導計画の理解（保育構想と保育者の意図・配慮）	
	学習成果	保育の構想について取り組むことができ、そこに必要とされる保育者の意図や配慮について、自ら考え、具体的に提示することができる	
	予習復習の内容	示されている指導計画を参考に、活動に応じた保育者の意図や配慮について、養護や教育の視点からどのようなものが考えられるか、収集しておくこと ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
5回	授業内容	指導計画の作成（子どもの姿と発達段階）	
	学習成果	子どもの姿を捉え、その姿に即した指導計画の作成に取り組むことができる	
	予習復習の内容	保育における子どもを観察する視点について、子どもの姿を捉える指標から収集しておくこと ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
6回	授業内容	指導計画の作成（計画の立案と教材研究）	
	学習成果	子どもの姿を捉え、教材研究を基にした指導計画の立案に取り組むことができる	
	予習復習の内容	身近な素材の活用の方法について、教材研究として取り組み、活用の可能性について検証しておくこと ▷理解度確認まとめテスト ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出	
7回	授業内容	指導計画の作成（計画の立案と環境構成）	
	学習成果	子どもの姿を捉え、環境構成を基にした指導計画の立案に間組むことができる	
	予習復習の内容	環境図について理解できるよう、文部科学省から示される指導計画について調べ読み込みをしておくこと ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
8回	授業内容	指導計画の公表と改善	
	学習成果	これまでに作成した指導計画について、報告し、改善のためのカンファレンスに取り組むことができるとともに、他者に対して改善のためのアイデアを提案吸うことができる	
	予習復習の内容	他者への提案をするために、事前に周囲の受講生と指導計画に関しての話し合いや相談を行っておくこと ▷保育所保育指針の理解 ▷グループワーク 取り組み・ワーク評価・相互評価 ▷学習内容報告書 当該週指定時まで作成の上提出 ▷確認小テスト	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習の内容		

科目名	保育内容 A				担当者	イシモリ 石森 マユコ 真由子 ・ ウエムラ 上村 ヒロキ 裕樹 ・ イワブチ 岩淵 セツコ 撰子							
区分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期	
				授業時間数	30	時間							
教員との連絡方法 質問等の受付方法		ishimori.mayuko@seiwa.ac.jp, uemura.hiroki@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	領域の総合化を具体的に理解した上で、子どもの遊びが主体的なプロセスの中で工夫されるために必要な環境を構成するための準備ができる。											
	②	年齢・発達に応じた遊びの在り方と適切な援助方法を理解し、計画することができる。											
	③	心動かされる体験やさまざまな刺激から、豊かな感性や想像力、表現力が養われるような遊びを構築するための準備ができる。											
	④	模擬保育の実践と振り返りにより自ら創造した保育を説明するとともに、課題を見出し再計画することができる。											
	⑤	グループワークによる模擬保育の実践、ドキュメンテーション作成を通して、保育者に必要とされる協働性を高め、実践的な保育計画を立案することができる。											
汎用的 学習成果	(1)	グループワークによる保育計画の立案及び模擬保育の実践を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力を高め、主体的、積極的に行動できる。(専門的学習成果②④⑤に関連)											
	(2)	子どもの主体的な遊びへとつながる行事活動を中心とした保育計画を立案することにより、保育者の社会的役割を自覚し、保育の実践につなげることができる。(専門的学習成果①②③に関連)											
	(3)	自ら創造した保育を説明することにより、自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(専門的学習成果④に関連)											
授業概要	生活や行事、遊びを通した総合的な保育内容の考案と指導方法についてカリキュラムデザインを踏まえて実践的に学ぶ。子どもの遊びを通して思考力や想像力を養い、他者と協働することや環境への関わり方などについても体得していく。具体的には、外部施設への遠足行事を中心として事前指導を含む保育計画を立案し、指導法の検討を行う。実際に外部施設の下見を行い、ICT機器を活用して企画書、しおり、おたより、ドキュメンテーションを作成し、グループごとに模擬保育を行う。行事と遊びを通した保育内容の理解をまとめとして行い、子どもの資質能力を育むための活動を発展させていくことのできる保育実践力を養う。												
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準									
	専門的 学習成果	定期試験											
		レポート	35	行事と遊びを通した保育内容の理解ができていくかについて3回の発表時の資料(5%×3回=15%)及び最終データ報告書(20%)により、評価を行う。									
		発表	45	保育計画の中間プレゼン、模擬保育とプレゼン、ドキュメンテーションのプレゼンの3回の内容により評価を行う。(15%×3回=45%)									
		活動への参与	20	授業への取り組み・意欲・態度により評価を行う。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果②④⑤にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果①②③にて評価を行う。 (3)は、専門的学習成果④にて評価を行う。												
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名				
	文部科学省		『幼稚園教育要領・幼稚園教育要領解説』										
	厚生労働省		『保育所保育指針・保育所保育指針解説書』										
		内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①時間外学習として、計60時間程度が必要になる。グループごとに計画を立て、取り組むこと。幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の保育内容5領域の復習、遊びの題材に関する情報収集(ICT機器の活用含む)、教材研究を行うこと。受講に当たっては自主的に学びを発展させるようにすること。なお、外部施設への移動等の費用は各自負担となる。 ②プレゼンテーション及び模擬保育実施後に、担当者による講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	ガイダンス、保育内容領域とカリキュラムの中の行事について、グループ分け		4回目にICT機器を利用した中間プレゼンテーションを行う。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。		
	予習復習の内容	参考文献から5領域について復習しておく。ICT機器等を活用して遠足行事についての情報や次回までに必要な内容を調べておく。		
2回	授業内容	外部施設への遠足行事を中心とした保育計画(事前指導ふくむ)の概要をまとめ、グループ内の役割分担を決定する。A:保育計画(事前おたより、行事後の模擬保育)、B:企画担当(家庭用・園用しおり、企画書、反省報告書)、C:保育計画(事前指導、ドキュメンテーション)		指定期日までに模擬保育実践の指導案、保育計画、企画書等の課題をデータで提出
	学習成果	グループワークに積極的に参加し、具体的な保育計画の立案に関わることができる。		
予習復習の内容	各自の担当部分について、調べた内容を中間プレゼンに向けて整理する。			
3回	授業内容	それぞれの担当の保育計画の立案。ありきたりではない模擬保育実践を目指す。		
	学習成果	保育計画の立案から、事後の指導と記録まで見直しをもって計画を立てることができる。		
予習復習の内容	次のプレゼンテーションに向けた準備を行う。			
4回	授業内容	中間プレゼンテーション(各グループ15分×3)保育計画等の見直しと下見に向けた打ち合わせ		
	学習成果	ICT機器を利用して、保育計画の中間プレゼンテーションを行うことができる。		
予習復習の内容	他グループの発表からの学びを取り入れ、保育計画の見直しをする。			
5回	授業内容	外部施設の下見①保育者が行事の下見に行く場合に確認しなければならない点を踏まえて行う。		
	学習成果	行事の下見において確認すべき内容は何か把握し、リストの作成と確認ができる。		
予習復習の内容	下見において確認すべき内容をリストアップしておく。			
6回	授業内容	外部施設の下見②自ら動物とふれあい、子どもたちに何を体験させたいのかを考える。		
	学習成果	子どもたちに体験させたい内容を具体的に述べるができる。		
予習復習の内容	豊かな体験となるように必要な事項をまとめておく。			
7回	授業内容	外部施設の下見③立案した保育計画を検証しながら下見を行う。		
	学習成果	立案した保育計画の見直しすべき点、課題を発見することができる。		
予習復習の内容	発見した課題を記録しておく。			
8回	授業内容	下見の結果を踏まえ、保育計画中の各担当の内容の見直しと確認		
	学習成果	グループ内で協力して保育計画及び企画書の見直しを行うことができる。		
予習復習の内容	グループごとに見直した結果を共有し、模擬保育実践とプレゼンに向けて方向性を決定する。			
9回	授業内容	事後指導の模擬保育実践の準備、おたより・しおり・企画書のプレゼンの準備		
	学習成果	模擬保育実践の準備に主体的に関わり、おたより・しおり・企画書プレゼン準備についても自分の意見を述べるができる。		
予習復習の内容	模擬保育のロールプレイに向けて必要な材料を揃える。企画書・おたより・しおり等のプレゼンに向けた準備を行う。			
10回	授業内容	模擬保育のロールプレイ、おたより・しおり・企画書・反省報告書等のプレゼンの準備		
	学習成果	模擬保育のロールプレイに積極的に参加することができる。		
予習復習の内容	ロールプレイにより見えた課題を実践までに解決する。おたより・しおり・企画書・反省報告書等を完成させる。			
11回	授業内容	グループ①模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ②③は模擬保育に子ども役で参加する		
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。		
予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。			
12回	授業内容	グループ②模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①③は模擬保育に子ども役で参加する。		
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。		
予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。			
13回	授業内容	グループ③模擬保育実践、作成したおたより・しおり・企画書等のプレゼン、グループ①②は模擬保育に子ども役で参加する。		
	学習成果	模擬保育実践において、グループで考えた行事後の保育を実践できる。		
予習復習の内容	自グループの発表に向けた準備と、他グループの発表を振り返りまとめる。			
14回	授業内容	自グループの模擬保育実践のドキュメンテーション作成、発表準備。		
	学習成果	模擬保育実践をドキュメンテーションにまとめる作業に積極的に関わることができる。		
予習復習の内容	ドキュメンテーションを完成させ、データにまとめる。			
15回	授業内容	まとめ 模擬保育のドキュメンテーション発表、データおよび作成物提出。行事と遊びを通した保育内容の理解		
	学習成果	行事と遊びを通した保育内容を理解し、言葉で説明できる。		
予習復習の内容	これまでの学習内容の振り返りを行い、自らの学習成果に対して具体的な評価を行う。			

科目名	保育内容 B				担当者	加藤 和子・佐々木貴弘・佐藤万利子・君島 智子						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーは初回の授業時に連絡する。 e-mail:kazuko.kato@seiwa.ac.jp,sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp,sato.mariko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	自らが遊びこむことを通して、「遊び」の意味を理解し、説明できる。										
	②	「遊び」こむ実体験の中から、保育内容の5領域の意義を理解し、説明できる。										
	③	「遊び」における表現と伝えあいを、保育5領域の総合化を通して理解し、実践できる。										
	④	幼児の発達・成長を考えながら「遊び」を発展させていく力を獲得できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる保育内容の5領域を理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身につけ、活用することができる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長を促す造形表現力、音楽表現力、身体表現力を習得し、実践できる。(専門的学習効果③④に関連)										
	(3)	保育者として必要なコミュニケーション能力を有し、子どもの意欲的な活動を支援することができる。(専門的学習効果④に関連)										
授業概要	津守真は、幼児の遊びの世界の、人間の精神の発達における意味を認識することの大切さを述べている。この授業では、表現し、伝え合い、展開していく「遊び」を自らが遊びこむ体験を通して、その意味を理解する。「遊び」が保育内容の5領域によって形作られていることを体験的に理解し、特に表現の多様性、様々な要素によって伝えあい、発展していくことを学ぶ。言葉遊び、素話、劇遊び、音楽劇等、表現と伝えあいによる広がりを通して「あそび」を発展させていく力を獲得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各表現活動を振り返り、保育の全領域にまたがる総合的な活動の理解を観点に評価を行う。各10%を3回実施する。								
		発表	50	劇遊び上演に向けての練習、話し合い、発表までの過程の取り組み方と発表の内容により評価を行う。各25%を2回実施する。								
	平常点	20	表現活動や発表への取り組み、意欲、態度を評価する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①で評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③で評価を行う。 (3)は専門的学習効果④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名					出版社名					
	著者・編集者名	書名					出版社名					
参考書 参考文献	文部科学省	『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)										
	厚生労働省	『保育所保育指針』(平成29年3月告示)										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①テキスト、配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。事前学習として授業内容理解のため、テキストを読み予習してくる。(予習：週2時間程度)事後学習としては、レポートを実施し、その内容を評価の対象とするので、復習をしっかりとすること。(復習：週2時間程度) ②練習過程と発表に対するフィードバックは実施後に、映像機器を活用して振り返り、講評を行う。											

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	保育内容Bの授業内容、目的と計画		○レポート 素話と5領域の関わりを認識し理解を深める。	
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要を説明できる。			
予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの内容を踏まえて学習計画を立てる。				
2回	授業内容	言葉による表現①素話を学ぶ			
	学習成果	素話の概要を知り、講演を聞く。素話の実践活動は、子どもの聴く力、想像力、考える力、集中力が育つことを理解する。			
予習復習の内容	素話の題材を選び、原稿を声を出して読みながら内容をイメージする。				
3回	授業内容	言葉による表現②素話を語る			
	学習成果	素話に表情を付け声の抑揚を変えながら語り、聞き手に物語のイメージを伝えることができる。			
予習復習の内容	幼児のための素話(昔話)8話の内容を楽しみながら理解を深める。				
4回	授業内容	音楽劇(子供と一緒に音・音楽・物語りで楽しむ)について①題材の選択			
	学習成果	複数の音楽劇上演映像、テープを脚本を見ながら視聴することで理解し、演目の選択ができる。			
予習復習の内容	保育者が子どもと共に楽しみながら5領域を育むために音楽劇のねらいを考える。				
5回	授業内容	音楽劇について②配役・担当の配置			
	学習成果	上演する音楽劇の配役(登場人物・ナレーター・司会)音楽、担当(音楽・衣装・大道具)を決定できる。			
予習復習の内容	決定した上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。				
6回	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて(1)			
	学習成果	3グループ(3歳児・4歳児・5歳児)の発達に合わせた脚本の劇遊びを選択することができる。			
予習復習の内容	発達段階に合わせて劇遊び脚本の「ねらいと内容」を考え、育みたい資質・能力を「幼稚園教育要領」の領域で確認する。				
7回	授業内容	幼稚園劇遊びに向けて(2)			
	学習成果	劇遊びの構成・演出・振付を、子どもが表現を楽しめるよう「ねらい」に照らし合わせて考え組み立てることができる。			
予習復習の内容	決定した3グループ(3・4・5歳児)向けの上演演目の脚本を読み込み、物語のイメージを広げる。				
8回	授業内容	幼稚園での劇遊びによる表現(3)			
	学習成果	劇遊びの中で、子ども自身も登場人物になって楽しめる活動を考え計画できる。			
予習復習の内容	劇遊びから劇ごっこ(子ども参加型の劇遊び)への保育の展開を考える。				
9回	授業内容	幼稚園での劇遊びの実践(4)【3クラス(3・4・5歳児)に分かれて演じる】		○発表 習得した知識や技能を活かして、聖和幼稚園で劇遊びを実践する。	
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して劇遊びを実践できる。			
予習復習の内容	脚本・演出を確認して衣装、小道具の準備等、グループで仲間との協働作業をする。				
10回	授業内容	音楽劇③劇の演出を考える		○レポート 劇遊びの実践から遊びと5領域の関りの理解を深める。	
	学習成果	劇遊びの経験から得た課題を基に、音楽劇の表現力を高めるための工夫を考え計画できる。			
予習復習の内容	幼稚園で実践した劇遊びを振り返り、課題を抽出する。				
11回	授業内容	音楽劇④歌と表現での劇世界を考える			
	学習成果	各担当(登場人物、音楽、ナレーター)で演出や表現方法を話し合い独自の音楽劇を創作することができる。			
予習復習の内容	脚本・演出を確認、考察して、グループで仲間との協働作業をする。				
12回	授業内容	音楽劇⑤演じることを楽しむ			
	学習成果	子どもと共に、歌って踊って役になりきって楽しめるように演じることができる。			
予習復習の内容	衣装、小道具の製作準備等を仲間と協働作業をする。				
13回	授業内容	音楽劇の上演に向けて			
	学習成果	練習をビデオで撮影して客観的に見ることで、演技や表現を振り返り、修正できる。			
予習復習の内容	音楽劇を通して、子どもが音楽や表現することの楽しさを味わえるよう考える。				
14回	授業内容	まとめ			○レポート 素話、劇遊び、音楽劇が全領域に関わり、子どもの成長を育むことの理解を深める。
	学習成果	「遊び」は保育の全領域にまたがる総合的な活動で、子どもの発達や成長を育むことを理解し、実践できる。			
予習復習の内容	素話、劇遊び、音楽劇の5領域との関係をまとめる。				
15回	授業内容	音楽劇上演		○発表 習得した知識や技能を活かして、イズミティ「母と子のロビーコンサート」で音楽劇を実践する。	
	学習成果	学習した造形表現力、音楽表現力、身体表現力を発揮して音楽劇を実践できる。			
予習復習の内容	心身ともにコンディションを整えて、音楽劇の発表に臨む。				

科目名	保育内容 C				担当者	宮本 美和子 ・ 中島 恵 ・ 山本 信						
区 分	選択必修	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		オフィスアワー及び e-mail:onomakiko@seiwa.ac.jp オフィスアワーは初回の授業時に連絡する										
専門的 学習成果	①	伝承遊びと子どもの発達段階との関係を理解し保育を計画することができる。										
	②	遊びの伝承性について理解し、その為に必要な環境について実践から理解し説明することができる。										
	③	遊びにおける表現と伝えあいを5領域の総合化を通して理解し説明することができる。										
	④	適切な援助方法や学びの連続性を理解し保育を展開できる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる専門的知識と基礎的な技能を習得し、実践につなげることができる。(専門的学習成果①に関連)										
	(2)	保育者の社会的役割を自覚し、豊かな感性や想像力、表現力をもって、子どもの理解や支援ができる。(専門的学習成果②に関連)										
	(3)	幅広く教養を身につけ保育者及び社会人として、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	保育者及び社会人として、必要なコミュニケーション能力を有し、自ら主体的、積極的行動がとれる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	子どもの発達はさまざまな保育の営みに影響される。ここでは感性を培う上で重要と思われる遊びの文化について、伝承遊び調べ、経験することでその遊びの持つ表現方法、伝え合いの意味、人間関係の変化について気づく。また、グループでの伝承遊びについて調べ、その内容を基に伝え合い、実際に遊び込む経験を通して、それらの伝承遊びと子どもの発達段階、及び学びの連続性についても理論的および実践的な面から総合的に理解を深める。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		指導計画案	30	伝承遊びについての理解できているかを観点に評価する。								
		実践	30	伝承遊びによる子ども達との遊びの実践内容が子どもの発達段階に沿うものであったか、また実践の中で子ども達の理解度から評価する。								
振り返りの 内容	40	伝承遊びの学びから作成したドキュメントを子どもの発達段階に沿うものであったか、また実践の中で子ども達の理解度から評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習評価の評価により評価を行う。 (1) 汎用的学習評価①で評価を行う。 (2) 汎用的学習評価②で評価を行う。 (3) 汎用的学習評価③で評価を行う。 (4) 汎用的学習評価④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名						出版社名			
	聖和学園短期大学保育学科		保育指導法実践研究報告書 vol.5						郵辨社			
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名						出版社名			
	鈴木敏朗・本間雅夫		『わらべうたによる音楽教育』						自由現代社			
	小川清実		『子どもに伝えたい伝承遊び 起源・魅力とその遊び方』						萌文書林			
	厚生労働省		『保育所保育指針』(平成29年3月告示)						厚生労働省			
	厚生労働省		『保育所保育指針解説』						厚生労働省			
	文部科学省		『幼稚園教育要領』(平成29年3月告示)						文部科学省			
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』						文部科学省			
内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』(平成29年3月告示)						内閣府・文部科学省・厚生労働省				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①配布する参考資料、視聴覚教材を活用し授業を進める。配布資料による事前学習、事後学習を行うこと。(週2時間程度)授業の中で作成する指導案、授業後のレポートなどはしっかりとまとめ、期限を守って提出すること。 ②レポート、指導案に対するフィードバックは提出後に解説を行う。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	保育内容Cの授業内容目的と計画。		1回目の授業内容の学びと本授業に対する自分自身の課題をレポートにまとめて提出。
	学習成果	子どもの発達と伝承遊びとの関係について意識的に考える。		
予習復習の内容	実習での子どもの様子、自分の子ども時代と遊びとを振り返ると共に伝承遊びについて調べる。			
2回	授業内容	わらべうた遊びの実践① わらべうた 紙飛行機の種類や作り方を調べる。実際に作る。		
	学習成果	わらべうたを実践できる。紙飛行機について種類や作り方と共に理解する。		
予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。			
3回	授業内容	わらべうた遊びの実践② わらべうた 紙飛行機作りと遊びの実践。		
	学習成果	わらべうたを実践できる。紙飛行機の素材や飛ばし方を工夫についてレポートにまとめる。		
予習復習の内容	授業内容を基にわらべうた遊びを理解し、実践する。紙飛行機の飛ばし方の振り返りをする。			
4回	授業内容	伝承遊びの理解と実践 外部講師の指導を受ける。		
	学習成果	外部講師によって指導された伝承遊びを理解し自分たちで遊ぶことが出来る。		
予習復習の内容	講師の指導指導内容を振り返ると共に、自身で伝承遊びについて新たに調べる。			
5回	授業内容	伝承遊びの実践① わらべうた コマとけん玉の実践。子どもが遊びやすい、けん玉作りをする。		幼稚園実践に向けての、活動案の作成と環境構成についてレポートにまとめる。
	学習成果	けん玉作りの活動案を作成する。		
予習復習の内容	子どもの発達に合わせたけん玉作りについてあらかじめ調べておく。			
6回	授業内容	伝承遊びの実践② 子どもと伝承遊びの実践(幼稚園)に向けての活動案を作成する。		
	学習成果	幼稚園児に伝承遊びを伝える中でさらに遊びの伝承性について理解する。		
予習復習の内容	幼稚園での実践にむけて、活動案の振り返りをする。			
7回	授業内容	伝承遊びの実践③ 伝承遊びを用いた指導案の立案と伝承あそびの課題の確認。		
	学習成果	伝承遊びを用いた指導案の立案をすると共に伝承遊びの課題を考えることができる。		
予習復習の内容	立案した指導案を課題を基に再構成する。			
8回	授業内容	伝承遊びの実践④ 子どもと伝承遊びの実践。コーナー遊び。(幼稚園)		
	学習成果	幼稚園児と伝承遊びのコーナー保育を実践し、遊びの展開について理解しレポートにまとめることができる。		
予習復習の内容	幼稚園での実践活動の振り返りをまとめる。			
9回	授業内容	伝承遊びの振り返り 学びの連続性について、ドキュメンテーション制作の手順。		
	学習成果	伝承遊びの振り返り 写真評価法と、ドキュメンテーション制作の手順を理解する。		
予習復習の内容	ドキュメンテーション制作の手順を振り返り、次回制作するための資料を準備する。			
10回	授業内容	伝承遊びの振り返り ドキュメンテーション制作①		
	学習成果	伝承遊びについてドキュメンテーション制作に取り組むことが出来る。		
予習復習の内容	自ら作成したドキュメントを振り返り、さらに完成に向けて資料などをまとめる。			
11回	授業内容	伝承遊びの振り返り ドキュメンテーション制作②		
	学習成果	伝承遊びについてドキュメンテーションを完成する。		
予習復習の内容	自ら作成したドキュメントをを基に授業を振り返る。			
12回	授業内容	伝承遊びの振り返り ドキュメンテーション制作の発表		9回から行ってきた「学びの連続性について」制作してきたドキュメントを提出する。
	学習成果	伝承遊びについてドキュメンテーションを発表する。		
予習復習の内容	自ら作成したドキュメントを基に授業を振り返る。			
13回	授業内容	わらべうた遊びの実践③ わらべうた これまでの遊びについて、さらに遊びこみ展開を実践する。		
	学習成果	遊びを通して、試行錯誤や創意工夫などの学びの芽についてまとめることができる。		
予習復習の内容	遊びを通してどのようなことを子どもたちは学んでいるか、幼稚園教育要領や保育指針を読み込む。			
14回	授業内容	わらべうた遊びの実践④ わらべうた これまでの遊びについて、さらに遊びこみ展開を実践する。		
	学習成果	遊びを通して、試行錯誤や創意工夫などの学びの芽についてまとめることができる。		
予習復習の内容	遊びを通してどのようなことを子どもたちは学んでいるか、幼稚園教育要領や保育指針を読み込む。			
15回	授業内容	14回の授業を振り返りまとめを行う。		
	学習成果	伝承遊びと子どもの発達段階、及び学びの連続性についても理論的および実践的な面から総合的に理解する。		
予習復習の内容	将来の実践に向けて、本授業における学びをレポートにまとめる。			

科目名	児童文化				担当者	佐々木 貴 弘						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sasaki.takahiro@seiwa.ac.jp オフィスアワーについては授業内で通知。授業内容等に関する質問等は毎時、授業の前後に教室内で対応する。											
専門的 学習成果	①	児童文化について理解を深める。										
	②	児童文化財が担う保育現場における役割を考え、手作り保育教材の製作を行う。										
	③	代表的な児童文化財を実製作し、実演を通して体験的に学ぶ。										
	④	児童文化を共感し、将来、保育者としてその担い手になる素地を培っていく。										
汎用的 学習成果	(1)	保育者に必要とされる児童文化に関することを理解し、保育現場における必要な基礎的知識・技能を身に付ける。(専門的学習成果①②③に関連)										
	(2)	子どもの発達や成長に即した保育実践力や、児童文化財を用いた実演発表力を高める。(専門的学習成果②③に関連)										
	(3)	子どもや保護者、及び地域社会における児童文化の意義を理解し、伝承の担い手としての保育者の役割を考えることができる。(専門的学習成果④に関連)										
授業概要	子どもは、あそびや体験を通して、生きる知恵や力を身に付けていく。また、子どもの中には、独自の文化的活動があり、それらを営み、伝える術として、「昔話」「わらべうた」「伝承あそび」「児童文学」などで伝承されてきた。保育者養成内での「児童文化」の位置付けは、主に、幼児教育で用いられている絵本、紙芝居、遊び、絵描き歌など、保育者側(大人)が用意し、子どもに提供して情緒、感性、生活スキル向上に働きかける保育教材を総称している。その役割を担うものを「児童文化財」といい、絵本、紙芝居に加え、近年はパネルシアターなど、保育現場で多用されているシアター教材などがある。本講義は、保育者として実際に子どもの前で実演できるよう、作品製作・発表を通して体験的に学んでいく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	児童文化財に関する技法や役割をまとめるレポートを課す。								
		作品製作・発表	50	製作技法の習得。それに伴う材料準備、製作手順の理解、活動時の試行錯誤の様子、留意点へ配慮、実演や内容、作品管理、持ち帰りまで評価する。								
平常点	20	製作活動や発表への取り組み、意欲・態度を評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)(3)については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②③により評価を行う。 (2)は専門的学習成果②③により評価を行う。 (3)は専門的学習成果④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名							出版社名			
	川勝 泰介(著)、生駒 幸子(著)、浅岡 靖央(著)	『ことばと表現力を育む児童文化』							萌文書林			
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名							出版社名			
		『幼稚園教育要領』『幼稚園教育要領解説』							文部科学省			
		『保育所保育指針』『保育所保育指針解説』							厚生労働省			
		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							内閣府・文部科学省・厚生労働省			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①事前学習、準備物等は、その都度指示。基本的に、保育現場で使える手作り児童文化財づくりを目標とします。製作・実演を中心に進めます(時間外学習約15時間)。各自、乳幼児を対象として保育教材研究に繋げることを目標とする。画材・手芸セット・は必要に応じて持参。エプロン(または汚れても良い服装)着用。長い髪はまとめる。教材費は、各々の製作物によって異なる(個人負担)。画材、教科書等は、番号・氏名を記入のこと。 ②ワークシートを基に、グループ内にて、アイデアや工夫点などを発表、共有し、学び合いを行う。また、製作中や発表時に、助言やコメントをする。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 児童文化とは何か。	ワークシートへの取り組み。
	学習成果	本授業の内容を理解し、概要について説明できる。	
	予習復習の内容	シラバスを事前に読み、その内容を理解する。オリエンテーションの説明を踏まえて、学習目標を立てる。	
2回	授業内容	児童文化財(絵本、紙芝居、各種シアター等)について。	映像教材を活用した児童文化財観賞。 基本的扱い方の確認。 多種多様な児童文化財の理解。
	学習成果	各種児童文化財についての再確認と、基本的な扱いができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、図書館などで関連図書などを探し、資料収集を行うことができる。	
3回	授業内容	児童文化財製作①-1(小作品課題製作) 伝えたいことを考える。	代表的な児童文化財(小作品)を選択し複数製作。 製作への取り組み。 実演、展示。 活動まとめ。
	学習成果	現場で多用されている手作り作品を活用し、「伝えたいこと」「製作目標」を考えアイデアスケッチを行うことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「伝えたいこと」を踏まえ、いくつかテーマを設定する。	
4回	授業内容	児童文化財製作①-2(小作品課題製作) 方法・手段を考える。	
	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を考え説明することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、「製作物」を踏まえ、仕掛けや構造を、自分で試作試行することができる。	
5回	授業内容	児童文化財製作①-3(小作品課題製作) 素材研究。	
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について考え選ぶことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を準備することができる。	
6回	授業内容	児童文化財製作①-4(小作品課題製作) 媒体の製作。	
	学習成果	児童文化財の伝達媒体、手段としての役割を意識しながら、作品製作ができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、より伝わりやすい表現方法について考え練習することができる。	
7回	授業内容	児童文化財製作①-5(作品発表) 実演・鑑賞。	
	学習成果	自分の作品を発表し、他者の作品を鑑賞することで、作品、活用法などを意見交換することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、実演・鑑賞を経て、課題を見出し修正することができる。	
8回	授業内容	児童文化財製作②-1(保育実践に向けた保育教材製作) 教材として。	代表的な児童文化財(シアター類)を選択し複数製作。 製作への取り組み。 実演、展示、伝達。 活動まとめ。
	学習成果	代表的な児童文化財(シアター類)をに関して、教材としての活用法を考え計画・設計できる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、授業内で紹介したシアター類の関する資料収集を行うことができる。	
9回	授業内容	児童文化財製作②-2(保育実践に向けた保育教材製作) 方法・手段を考える。	
	学習成果	「伝えたいこと」に基づき、それを伝える方法・手段を、自分で考え示すことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、製作物に関して、仕掛けや構造を考えることができる。	
10回	授業内容	児童文化財製作②-3(保育実践に向けた保育教材製作) 素材研究。	
	学習成果	製作目標に対し、使用場所に適した素材について、自分で考え選ぶことができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、手触り、強度、演出効果などを考え、適切な素材を、自分で準備することができる。	
11回	授業内容	児童文化財製作②-4(保育実践に向けた保育教材製作) お話創作。	
	学習成果	オリジナル作品作りも視野に入れ、独自の児童文化財製作へ発展させることができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、既存に限らず、自分で創作、考案し、実製作に繋げることができる。	
12回	授業内容	児童文化財製作②-5(保育実践に向けた保育教材製作) 実製作。	
	学習成果	試行錯誤をしながら、「手作り保育教材」のよさを実感しながら製作することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、事前準備で不足していた材料を考え調達することができる。	
13回	授業内容	児童文化財製作②-6(保育実践に向けた保育教材製作) 模擬保育。	
	学習成果	保育現場を想定し、児童文化財を活用しながら模擬保育を行うことができる(グループ学習)。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、模擬保育を経て、自己あるいは他者から評価を基に、修正することができる。	
14回	授業内容	児童文化財製作②-7(作品発表) 実演・鑑賞。	
	学習成果	グループ発表の中から、クラス全体へ紹介する作品を選出。クラスの中で実演することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を振り返り、全体発表から学びえたことを基に、自分の製作や実演について考えを深める。	
15回	授業内容	児童文化への理解と児童文化財製作研究のまとめ・総括。	振り返りシートへの取り組み。 全体総括。
	学習成果	手作り体験から、発表を通して、体験的発見的に、児童文化への理解を深め、表現することができる。	
	予習復習の内容	学習内容を総括し、児童文化への理解をより深め、保育現場における児童文化財の活用に向けて表現力を磨く。	



科目名	ピアノⅡ				担当者	サ 佐 藤 マリコ ・ 岩 淵 セツ コ 子 ・ 他						
区 分	選択	1	単位	授業回数	30	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法	sato.mariko@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	習得した基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させ、豊かな表現力をもってピアノ演奏ができる。										
	②	初見視奏、コード奏法など保育現場で応用できるピアノ独奏及び伴奏技能を高め、実践できる。										
	③	基本的な音楽理論を理解し、簡単な曲を初見で演奏できる。										
	④	子どもを前にして、楽しく弾き歌いを実践できる。										
汎用的 学習成果	(1)	基礎的なピアノのテクニックをさらに向上させることによって、保育現場で必要とされるピアノ演奏技能を習得し、実践できる。(専門的学習成果①③に関連)										
	(2)	初見視奏やコード奏法、楽曲のアレンジなどの応用力を高め、豊かな表現力をもってピアノを演奏できる。(専門的学習成果①②に関連)										
	(3)	挨拶の歌、季節の歌や行事の歌など様々な場面で用いられる子どもの歌の弾き歌いを数多く行い、保育現場での実践につなげることができる。(専門的学習成果②④に関連)										
	(4)	レッスンや試験で弾くことにより人前で演奏する時の態度・マナーを身につけ、地域社会で活用することができる。(専門的学習成果①④に関連)										
授業概要	ピアノⅠで習得した基礎的なテクニックをさらに向上させて、保育現場で役立つような応用力を養う。前期は幼稚園教育実習や保育所保育実習に備えて、あいさつの歌や季節感のある子どもの歌の弾き歌いを中心にレッスンを行い、子どもの前で楽しく弾き歌いができるようにする。また、マーチ、ランニング、スキップ、ギャロップ、ワルツなどの音楽も経験する。いつでも弾き歌いできるレパートリーを広げ、感性豊かな保育者としての基礎を形成し、保育実践の場で活用できるようにする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	50	前期末及び後期末に演奏試験を行い、全担当教員により評価する。								
		レポート										
		平常点	50	レッスンへの取り組み・意欲・態度により各担当教員が評価を行う。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果 (1) (2) (3) (4) については、以下の通り専門的学習成果により評価を行う。 (1) は専門的学習成果①③により評価を行う。 (2) は専門的学習成果①②により評価を行う。 (3) は専門的学習成果②④により評価を行う。 (4) は専門的学習成果①④により評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	小林美実監修・井戸和秀編		『こどものうた100』				チャイルド社					
	小林美実編		『続こどものうた200』				チャイルド社					
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	全国大学音楽教育学会編		『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』				音楽之友社					
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①音楽に関わる基本的な技能の上達は、毎日の反復練習と各自の熱意が大切です。予習復習を含めて毎日ピアノに触れて練習を行いましょう。練習の継続が基礎的なテクニックの習得につながります。音楽を楽しみ、より高い音楽的能力を身につけるよう練習に励みましょう。 ②前期及び後期終了時に、担当教員によるレッスン指導内容とアドバイス、試験における演奏内容の評価と講評によりフィードバックを行う。											

授業計画		学習成果の評価	授業計画		学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション、基礎の復習	16回	授業内容	後期のオリエンテーション。
	学習成果	ピアノⅠで習得したピアノの基礎的なテクニックが身についている。		学習成果	オリエンテーションの内容をレッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	ピアノの基礎テクニックを復習し、各自の課題を練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を練習する。練習の記録をつける。
2回	授業内容	春の歌：小鳥の歌、おべんとう、みんなのうた：そらだったらいのにな	17回	授業内容	みんなのうた：ドレミの歌、たのしいね
	学習成果	課題の歌をリズムに注意して弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を付点リズムを生かして弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	次回の課題を正しい指使いで練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を付点リズムを生かして練習する。練習の記録をつける。
3回	授業内容	春の歌：おかあさん、あめふりくまのこ、みんなのうた：世界中の子どもたちが	18回	授業内容	みんなのうた：小さな世界、七つの子
	学習成果	課題の歌をテンポ、強弱、曲風に気を付けて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌の世界観を生かし、豊かな表現で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲の世界観が表現できるように練習する。練習の記録をつける。
4回	授業内容	夏の歌：たなばたさま、みずあそび、みんなのうた：バスごっこ、パレード	19回	授業内容	みんなのうた：カレンダーマーチ、おうま
	学習成果	夏の歌を季節感を持って表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を適切な歌詞の割り付けで弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を適切な歌詞の割り付けで練習する。練習の記録をつける。
5回	授業内容	夏の歌：こおろぎ、なみとかいから、みんなのうた：ホ！ホ！ホ！、さんぽ	20回	授業内容	みんなのうた：ハッピーチルドレン
	学習成果	夏の歌を歌詞の意味を考えて表現できる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を明るく楽しく弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を明るく楽しく弾き歌いできるように練習する。練習の記録をつける。
6回	授業内容	秋の歌：大きな栗の木の下で、みんなのうた：アイスクリームのうた	21回	授業内容	みんなのうた：はくのミックスジュース
	学習成果	コード奏法により伴奏をつけることができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌をテンポの変化に注意して弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	コード奏法を復習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲をテンポの変化に注意して練習する。練習の記録をつける。
7回	授業内容	秋の歌：小さい秋みつけた、みんなのうた：南の島のハメハメハ大王	22回	授業内容	みんなのうた：ぼくらはみらいのたんけんたい
	学習成果	短調の曲の雰囲気を考えて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を強弱を生かして豊かな表現で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を豊かな表現で弾き歌いできるように練習する。練習の記録をつける。
8回	授業内容	秋の歌：たきび、みんなのうた：動物園へいこう	23回	授業内容	みんなのうた：はじめの一步・その他
	学習成果	季節感のある歌を弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を曲想を生かして弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を曲想を考えて練習する。練習の記録をつける。
9回	授業内容	季節のうた：きのこ、赤とんぼ	24回	授業内容	季節の歌：北風小僧の貫太郎
	学習成果	歌の中の調性の変化を感じて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	課題の歌を両手伴奏で弾き歌いできる。レッスンの記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	課題の曲を両手伴奏型で練習する。練習の記録をつける。
10回	授業内容	季節のうた：村まつり、虫のこえ	25回	授業内容	後期試験曲の選曲
	学習成果	お祭りの雰囲気を考えて弾き歌いできる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲の選曲に積極的に関わることができる。
	予習復習の内容	レッスン内容を振り返り練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	決まった試験曲の譜読みをする。練習の記録をつける。
11回	授業内容	前期試験曲の選曲	26回	授業内容	後期試験の指導1回目
	学習成果	前期試験曲の選曲に積極的に関わることができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲の概要をつかみ、正しい指使いで弾くことができる。
	予習復習の内容	試験曲の概要を掴み、正しい指使いで練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を正しい指使いで、両手で弾く練習をする。
12回	授業内容	前期試験曲の指導1回目。指使い、拍子、テンポ等の確認	27回	授業内容	後期試験の指導2回目
	学習成果	正しい指使いを確認し、試験曲を片手ずつ弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲をゆっくり両手で弾けるようになる。レッスン内容を記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	試験曲をゆっくり両手で弾く練習。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を歌って弾く練習をする。練習の記録をつける。
13回	授業内容	前期試験曲の指導2回目。ゆっくり両手で弾けるようにする。難しい箇所を確認する。	28回	授業内容	後期試験の指導3回目
	学習成果	試験曲をゆっくり両手で弾けるようになる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲を歌って弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	歌いながら弾けるように練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	試験曲を通して、曲想を考えて練習する。レッスン内容を記録にまとめることができる。
14回	授業内容	前期試験曲の指導3回目。歌いながら弾く。	29回	授業内容	後期試験の指導4回目
	学習成果	歌いながら全体を通して弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	試験曲を通して、表情豊かに弾くことができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	歌詞の意味を考えて歌えるように練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	リハーサルに向けて通して練習する。
15回	授業内容	前期試験曲のリハーサル。試験本番に向けた練習の仕方について	30回	授業内容	後期試験のリハーサル
	学習成果	リハーサルで試験と同様に演奏することができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。		学習成果	リハーサルで試験と同様に演奏することができる。レッスン内容を記録にまとめることができる。
	予習復習の内容	リハーサルで見た課題を克服し、試験に向けて練習する。練習の記録をつける。		予習復習の内容	リハーサルで見た課題を克服できるように練習する。

科目名	子どもと楽器あそび				担当者	木 島 由美子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業 形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		質問等は毎回授業の前後に教室で受け付ける。										
専門的 学習成果	①	任意の楽器を使ってアンサンブルすることができる。										
	②	子どもの歌の器楽アンサンブルを完成させ、発表することができる。										
	③	簡単な編曲をすることができる。										
	④	適切な手順でアンサンブルを完成することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	器楽を通して豊かな感性や表現力を養い、保育者および社会人として地域社会で活用することができる。(専門的学習成果①②④に関連)										
	(2)	アンサンブルを体験することで、他者と強調する心を持ち、地域社会でいかすことができる。(専門的学習成果④に関連)										
	(3)	編曲の基礎を身につけることで子どもの音楽活動の支援ができる。(専門的学習成果③に関連)										
	(4)	初体験の楽器演奏や編曲を通じて自己の課題を客観的に見出し、解決に向け学び続けることができる。(専門的学習成果①③に関連)										
授業概要	管・弦・打楽器を活用し、多様なアンサンブルと、ごく簡単なアレンジ方法を体験する。保育交流会では、子どもの歌のアンサンブルを1クラスにつき2曲ずつ発表する。 試験は、任意のメンバーでグループ組み、任意の曲を選び、編曲したものを演奏するクラスコンサートとする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		平常点	70	授業への取り組み、意欲、態度により評価する。								
		後期試験	30	グループごとにアレンジしたものを演奏、クラスコンサートとする。								
	汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1)は専門的学習成果①②④で評価を行う。 (2)は専門的学習成果④で評価を行う。 (3)は専門的学習成果③で評価を行う。 (4)は専門的学習成果①③で評価を行う。										
テキスト 等	著者・編集者名		書名					出版社名				
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名					出版社名				
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①使用できる楽器は次の通り。ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、クラリネット、アルトサックス、テナーサックス、トランペット、トロンボーン、ユーフォニウム、ベースギター、アコースティックギター、シロフォン、マリンバ、ピブラフォン、ドラムス、ティンパニ、チューブラーベルなど各種パーカッション。演奏の際に、担当楽器によって異なる準備事項をしっかり確認の上行うこと。具体的には、運指表、(木管楽器)リード、ガーゼ、クリーニングペーパー、スワブ、バルブオイルなど各種オイル、コルクグリスなど各種グリス、(ヴァイオリン、チェロの)松脂等は、用意するので申し出るように。練習は基本的に授業時間内とするが、時間外に練習する際は楽器の取り扱い、管理、楽器庫の鍵の管理に注意すること。(15h程度の時間外学習を要する) ②楽譜が渡ったら練習すること。楽器が使えない場合は歌う、ピアノで弾くだけでも大変効果的である。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	アンサンブルすることの意義、授業の内容について。各楽器に触れる。アレンジ基礎1、担当楽器アンケータ実施	グループごと8小節ほどのアレンジをして発表する。
	学習成果	任意の楽器の扱い方に慣れる。3パートへのアレンジができる。	
	予習復習の内容	アレンジ：コードネームからのバスパートの作り方を理解する。	
2回	授業内容	交流会での演奏曲、担当楽器を全て決定、アレンジ基礎2	グループごと8小節ほどのアレンジをして発表する。
	学習成果	任意の楽器の音出し、掃除も含め扱い方に慣れる。4パートへのアレンジができる。	
	予習復習の内容	メロディのハモリやオカズの作り方を理解する。	
3回	授業内容	1曲めの譜面を渡す。サンプル演奏を聴いた後、各楽器ごと個人練習。全体合奏。	授業の終わりに短時間の全体合奏で成果を確認。
	学習成果	譜面を読み、楽器で音を出すことができる。(初心者音は3個出すのが目標！)	
	予習復習の内容	楽譜を台紙に貼るなど、パート譜として使えるよう準備。譜読みの復習。	
4回	授業内容	1曲めの個人練習。後半で全体合奏。	全体合奏で成果を確認。
	学習成果	不明な点や不可能な部分は解決できるよう、個人やクラスで行動できる。	
	予習復習の内容	譜読みの復習。ピアノで弾くほか、歌う。	
5回	授業内容	2曲めの譜面を渡す。サンプル演奏を聴いた後、各楽器ごと個人練習。全体合奏。	授業の終わりに短時間の全体合奏で成果を確認。
	学習成果	2曲めの譜面を読み、楽器で音を出すことができる。(初心者も少し音を増やす)	
	予習復習の内容	楽譜を台紙に貼るなど、パート譜として使えるよう準備。譜読みの復習。	
6回	授業内容	2曲めの個人練習。(余裕があれば1曲めも)後半で全体合奏。	全体合奏で成果を確認。
	学習成果	不明な点や不可能な部分は解決できるよう、個人やクラスで行動できる。	
	予習復習の内容	譜読みの復習。ピアノで弾くほか、歌う。	
7回	授業内容	1,2曲合わせて個人練習のほか、パート練習。後半合奏。	パート練習、全体合奏で成果を確認。
	学習成果	パート内で合わせる事ができる。	
	予習復習の内容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
8回	授業内容	個人練習のあと、セクション(パートより大人数で)練習、全体合奏。	セクション練習、全体合奏で確認。
	学習成果	セクションで互いに気を配りつつアンサンブルの精度を上げていくことができる。	
	予習復習の内容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
9回	授業内容	個人練習のあと、セクション練習、全体合奏。	セクション練習、全体合奏で確認。
	学習成果	より美しい音で、アンサンブルの精度を上げていくことができる。	
	予習復習の内容	担当楽器の復習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
10回	授業内容	合奏の仕上げ。交流会準備。後期試験準備。	全体合奏で成果を確認。
	学習成果	楽しくアンサンブルできる。後期試験のためのグループを組みプログラムを考える。	
	予習復習の内容	交流会の実行委員との連絡を密にして準備する。プログラムは無理のないように。	
11回	授業内容	交流会本番。	交流会の発表。
	学習成果	子どもの前で楽しく演奏できる。	
	予習復習の内容	交流会の実行委員との連絡を密にして準備する。	
12回	授業内容	後期試験に向けてグループごと曲とともに使用楽器を決定、アレンジに入る。	各グループごとアレンジと演奏の取り組み。
	学習成果	任意の楽器を練習できる。任意の曲をアレンジできる。	
	予習復習の内容	グループごと相談してアレンジする。担当楽器の練習。	
13回	授業内容	グループごとアレンジ、練習に入る。	各グループごとアレンジと演奏の取り組み。
	学習成果	任意の曲をアレンジできる。任意の楽器を演奏できる。	
	予習復習の内容	担当楽器の練習。楽器が使えない場合はピアノで弾く。	
14回	授業内容	グループごとアレンジ、練習。	各グループごとアレンジと演奏の取り組み。
	学習成果	アレンジをより効果的になるよう検討できる。よりよい演奏ができる。	
	予習復習の内容	担当楽器の練習。	
15回	授業内容	グループごとの練習。	各グループごと演奏の取り組み。
	学習成果	アレンジをより効果的になるよう検討できる。よりよい演奏ができる。	
	予習復習の内容	担当楽器の練習。	

科目名	子どもと自然				担当者	シバタ 卓						
区分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	30	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		授業後または、メール (shibatasu@koriyama-kgc.ac.jp) にて行う。										
専門的 学習成果	①	北欧諸国の保育と自然保育の仕組みについて説明できる。										
	②	日本の子どもを取り巻く現状を理解し、自然保育や野外教育の意義について説明できる。										
	③	自然の魅力を活かした保育技術を計画することができる。										
	④	自然保育・野外教育を指導・展開するための方法について説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	海外の保育事情や自然保育を理解し、保育者の専門性を探求することができる。(専門的学習成果①②)										
	(2)	地域の自然環境を理解し、発育発達に応じた保育を計画・展開・評価することができる。(専門的学習成果③④)										
授業概要	はじめに、北欧諸国の保育実践を紹介しながら、日本と異なる文化・価値観・保育カリキュラム等について理解を深める。また、日本の子どもを取り巻く環境(物的環境・生活環境など)から課題を抽出し、子どもと自然について議論する。また、日本における野外保育・自然保育の実践から、5領域との関連について横断的に理解する。さらに、学外の自然環境を活用して保育内容の計画・実施・教材研究を行い、野外教育と自然保育の展開方法を習得する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		課題	50	レポート・課題(各2回)								
	ポートフォリオ	50	提出2回 毎回学習後に各自振り返りを実施し、学習内容を記載する。									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果により評価を行う。 (1)は、専門的学習成果①②にて評価を行う。 (2)は、専門的学習成果③④にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	柴田卓 石森真由子 編著		『楽しく学ぶ運動遊びのすすめ』							みらい		
	西浦和樹翻訳		『北欧スウェーデン発 科学する心を育てるアウトドア活動事例集』							北大路書房		
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	谷雅泰 青木真理編著		『転換期と向き合うデンマークの教育』							ひとなる書房		
	文部科学省		『幼稚園教育要領』							フレーベル館		
	厚生労働省		『保育所保育指針』							フレーベル館		
内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』							フレーベル館			
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①時間外学習(60時間)として、授業で学習した内容を上記テキストのポートフォリオにまとめること。 ②疑問点等は翌週の授業でフィードバックできるよう各自で考察し整理しておくこと。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	オリエンテーション 授業内容の説明 子ども時代の遊びを振り返る	ポートフォリオ
	学習成果	子どもにとっての遊びの意義を説明できる。	
2回	予習復習の内容	予習：イニシアチブゲームとは何か調べる	ポートフォリオ
	授業内容	外遊び1 自然遊びの実践と方法の理解(イニシアチブゲーム)	
3回	学習成果	イニシアチブゲームにおける指導者の関わり方について説明できる。	ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：グループにおける自身の役割など、学びの物語の視点から捉えてみる	
4回	授業内容	外遊び2 自然遊びの実践と方法の理解(自然物を活用した遊び)	ポートフォリオ
	学習成果	自然物を活用した遊びの可能性を表現できる。	
5回	予習復習の内容	復習：実施した遊びの発展的連続性についてポートフォリオに記入する	ポートフォリオ
	授業内容	外遊び3 自然遊びの実践と方法の理解(スウェーデンの事例から)	
6回	学習成果	スウェーデンのアウトドアを活用した数学・理化などの活動を体験し報告することができる。	ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：運動遊びの横断的な可能性について復習する	
7回	授業内容	外遊び4 自然遊びの実践と方法の理解(日本の伝承遊び)	ポートフォリオ
	学習成果	日本の伝承あそびにおける意義を捉え直し、説明できる。	
8回	予習復習の内容	予習：デンマークについて調べる	ポートフォリオ
	授業内容	ディスカッション1 「デンマークの社会と子育て」	
9回	学習成果	幸福感・民主主義・子ども観について報告できる。	ポートフォリオ 課題提出(レポート)「北欧の自然保育に関して」
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	
10回	授業内容	ディスカッション2 「ドイツ・デンマーク・日本の森のようちえん」	ポートフォリオ
	学習成果	森のようちえん・自然保育について、説明できる。	
11回	予習復習の内容	予習：フィンランド・スウェーデンについて調べる	ポートフォリオ
	授業内容	ディスカッション4 「外遊びを楽しむための関わりとリスクマネジメント」	
12回	学習成果	リスクの理解と保育者とのかわりについて説明できる。	ポートフォリオ 課題提出「計画表」
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	
13回	授業内容	「園外保育の計画」	ポートフォリオ
	学習成果	園外保育を計画する上で重要となる視点を理解し、計画できる。	
14回	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	ポートフォリオ
	授業内容	フィールドワーク① 「自然遊びの創作と教材研究」	
15回	学習成果	自然遊びの教材を作成できる。	ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	
16回	授業内容	フィールドワーク② 「創作した外遊びの発表・実践」	ポートフォリオ
	学習成果	創作した遊びを実践し、子どもの視点について報告できる。	
17回	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	ポートフォリオ
	授業内容	フィールドワーク③ 「創作した外遊びの発表・実践」	
18回	学習成果	創作した遊びを実践し、保育者の視点について報告できる。	ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	
19回	授業内容	フィールドワーク④ 「振り返りとお便り作り」	ポートフォリオ
	学習成果	園外保育等で保護者に何を伝えるか等、お便りの作り方を知り、作成できる。	
20回	予習復習の内容	予習：雪遊びの種類と準備物を調べる	ポートフォリオ提出 課題提出「お便り」
	授業内容	外遊び5 雪遊びの実践と方法の理解	
21回	学習成果	雪遊びの導入展開まとめの方法について説明できる。	ポートフォリオ
	予習復習の内容	復習：自分なりの感想をまとめる	
22回	授業内容	ふりかえりとまとめ	課題提出(レポート)「子どもと自然に関して」
	学習成果	「子どもと自然」に関して、自身の学習成果を客観的に捉え、まとめ報告できる。	
23回	予習復習の内容	なし	課題提出

科目名	保育実習Ⅱ				担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 摂子						
区 分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業 形態	実習	学年	2年	開講期	通年
				授業時間数	90	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。										
専門的 学習成果	①	保育所実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容を、子どもの姿を予測し仮説を立てながら保育実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえた保育の改善について、具体的な事例を通して学び、一般化することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にした上で、他者と討議することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、子どもの理解・支援に主体的に取り組む中で、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、地域社会における保育者の役割について論じることができる。（専門的学習成果①④⑤）										
授業概要	保育所における総合実習と位置づけ、保育実習Ⅰで学んだことを基に、実践的な応用能力をさらに深めることを目的とする。さらに、指導計画の立案とその実践方法について体験し、理解を深めていく。また、乳児保育・延長保育・障害児保育など多様な保育ニーズに基づく具体的な保育所の対応と実践を体験するとともに、保護者との連携の方法や家庭と保育所との関係についても具体的な場面を通して学び、保育所の役割と課題について、自分の考えの表現や他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合（％）	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	20	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとのかかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	40	実習Ⅱの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
		実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①実習に臨むにあたり必要な教材の準備や、保育所保育指針の確認等の事前学習を行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価		
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成			1クール（1,2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題に基づき、子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。			
	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。			
2回	授業内容	部分実習を通した指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成			2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施
	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。また、実施後の課題を具体的に挙げ、日々の保育と関連づけながら以降の実習に参加できる。			
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。実施後も、自らの改善点や課題を整理し、実習担当者と継続的にやりとりを行えるようにしておくこと。			
3回	授業内容	部分実習、全日実習を通した指導案の実践および自らの保育の改善			3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導
	学習成果	保育の改善の視点を持ち、計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。			
	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見通しを持って計画的に学びを整理しておくこと。			
4回	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善			4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通した評価 ○保育の改善
	学習成果	実習全体を通した自らの学習課題について具体的に挙げることができるとともに、他者と共有・討議することができる。			
	予習復習の内容	実習全体を通して「できたこと・できなかったこと」についてまとめておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。			
5回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
6回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
7回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
8回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
9回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
10回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
11回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
12回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
13回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
14回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				
15回	授業内容				
	学習成果				
	予習復習の内容				

科目名	保育実習Ⅲ				担当者	加藤 和子・佐藤 万利子・山本 信・君島 智子						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	後期
				授業時間数	90	時間						
教員との連絡方法 質問等の受付方法		ゼミ担任の研究室への訪問										
専門的 学習成果	①	施設実習の意義と目的を理解し、支援について総合的に学ぶ中で、これまで得た知識や技能を関連づけることができる。										
	②	実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえて理解し、実践に応用することができる。										
	③	観察、記録および自己評価等を踏まえて、具体的な事例を通して学び、実践につなげることができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価を行い、実習の中で課題や認識を明確にした上で、解決に向けて学び続けることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育士に必要とされる専門的知識と技能について理解し保育実践につなげて積極的、主体的に子どもの支援ができ、自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。(専門的学習成果①②③⑤)										
	(2)	保育者として必要なコミュニケーション能力や他者と協働する力を持ち地域社会でいかし、保育者の社会的役割について論じることができる。(専門的学習成果④⑤)										
授業概要	保育実習Ⅲは、「保育実習ⅡまたはⅢのいずれかを選択必修」とされている科目である。主として児童福祉施設または障害児支援施設で、保育実習Ⅰで学んだことを踏まえ、さらに深い理解を図るための実習としている。児童福祉施設または障害児支援施設等それぞれの役割、違い、保育士のかかわり方について実践知を得る。さらにこれまで学んだ保育者として総合力をつけることを目的とする。実習の中で実践を体験するとともに、保育者の役割について他者との討議を通して学びを深めていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		実習状況・訪問指導	30	巡回指導を含め、実習に取り組む姿勢や、子どもとかかわる姿等、総合的に評価する。								
		実習先からの評価	30	実習Ⅲの評価表に基づき、実習態度・実習内容・実習記録について評価する。								
		実習日誌	40	日誌の内容・提出状況・次の保育に生かすことができたかについて評価する。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	聖和学園短期大学	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協議会	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	厚生労働省	『保育所保育指針』（解説書含む）										
	内閣府・文部科学省・厚生労働省	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①実習に臨むにあたり保育実習Ⅰ、保育実習指導Ⅰを踏まえて課題を意識し、必要な教材準備等を事前に行うこと。 ②実習の取り組みについては、訪問巡回指導などを通じて、適宜フィードバックを行う。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	参加実習と指導案の作成		1クール（1,2日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成
	学習成果	子どもの姿から仮説を立て、具体的なイメージと予測をもとに、それらを指導案と関連づけることができる。		
2回	予習復習の内容	実習Ⅰにおける課題を振り返り、自分が取り組むべきことを明確にしておくこと。実習先の概要や一日の流れについて理解した上で実習初日を迎えること。		2クール（3～5日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施
	授業内容	部分実習を通した指導案の実践および全日実習に向けた指導案の作成		
3回	学習成果	指導案の作成から実践に向かう中で、実習担当者と討議し、見通しと予測を持って指導案を実施することができる。		3クール（6～9日目） 実習先からの評価 ○実習への参加姿勢・日誌 ○指導案作成・実施 ○保育の改善 教員による実習訪問指導
	予習復習の内容	指導案の作成・実施にあたり、実習担当者と事前に十分な話し合いを行えるよう準備を進めること。		
4回	授業内容	部分実習、全日実習を通した指導案の実践および自らの保育の改善		4クール（10日目） 実習先からの評価 ○実習全体を通した評価 ○保育の改善
	学習成果	計画・実践・評価・改善のサイクルを実施することができる。		
5回	予習復習の内容	日々の活動の振り返りと、次の実践への計画を同時に進めることになるため、見直しを持って計画的に学びを整理しておくこと。		5回
	授業内容	実習のまとめおよび自らの課題への取り組みと改善		
6回	学習成果	実習全体を通した自らの学習課題について具体的に挙げることができるとともに、他者と共有・討議することができる。		6回
	予習復習の内容	実習全体を通して自らを振り返り、課題を抽出しておくこと。また、それらを他者と共有できるよう、具体的な言葉で表現できるようにしておくこと。		
7回	授業内容			7回
	学習成果			
8回	予習復習の内容			8回
	授業内容			
9回	学習成果			9回
	予習復習の内容			
10回	授業内容			10回
	学習成果			
11回	予習復習の内容			11回
	授業内容			
12回	学習成果			12回
	予習復習の内容			
13回	授業内容			13回
	学習成果			
14回	予習復習の内容			14回
	授業内容			
15回	学習成果			15回
	予習復習の内容			

科目名	保育実習指導Ⅱ				担当者	佐々木 貴弘 ・ 中島 恵 ・ 岩淵 摂子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法		担当者（佐々木・中島・岩淵）の研究室への訪問またはメール（授業内で指示する）。										
専門的 学習成果	①	総合的に保育を考え、これまで得た知識や経験と関連づけながら、保育実習の意義と目的について論じることができる。										
	②	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について、実習への見通しを持ちながら、また、実習後の振り返りを行いながら具体的に説明することができる。										
	③	保育の記録や自己評価を踏まえ、保育の改善について実践を通して考え、他者と討議することができる。										
	④	保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、保育者として必要な具体的な配慮や態度・姿勢について論じることができる。										
	⑤	実習の総括と自己評価から、新たな課題や学習目標を明確にし、自らの言葉で表現・説明することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育士の専門性について理解し、保育実践を通して自己の課題を客観的に見出し、具体的な改善点を挙げることができる。（専門的学習成果①②③⑤）										
	(2)	他者との協働や議論を通して、保育者として必要なコミュニケーション能力や学びに向かい探求を続ける姿勢を養い、自らの力を地域社会で生かすための具体的な方法について述べるることができる。（専門的学習成果①④⑤）										
授業概要	保育実習指導Ⅱは、保育実習Ⅰからの連続性および発展性の観点から位置づけられる。保育実習Ⅰでの学びや自己の学習課題をもとに、保育実習Ⅱに向けた実習目標を設定し、総合的に保育を捉える意識を持ちながら、保育実習の意義と目的について改めて理解を深める。さらに、指導案の立案および子どもの成長や発達にとって意味のある保育や援助の方法について学ぶ。また、実習の総括と自己評価を通して、学びの表現（プレゼンテーション）や他者との討議を重ねながら、新たな課題や学習目標を明確にしていく。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		事前学習	20	実習課題の設定等、実習に向けた準備について総合的に評価する。								
		事後学習	20	実習状況を踏まえた自己評価・新たな学習課題の設定等について総合的に評価する。								
		実習報告会	30	実習報告会に向けた取り組み（計画・実践・評価・改善）について総合的に評価する。								
授業への取り組み	30	授業全般における意欲・態度や授業に取り組む姿勢により評価する。										
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・⑤にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果①・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	聖和学園短期大学		『教育・保育実習ガイドブック』									
	宮城県保育実習連絡協議会		『保育実習の手引き』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	厚生労働省		『保育所保育指針』（解説書含む）									
	内閣府・文部科学省・厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（解説書含む）									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①本科目は、保育実践力についての総合的な理解を目的としているため、実習後、実習報告会および交流会の準備・実践が履修上の要件となっている。実習に向けての準備や、実習後における新たな目標設定を効果的に行うために、授業計画に従い週1時間程度の時間外学習を必ず行うこと。 ②フィードバックに関しては、担当教員より、授業内での発言や記述について個別のやりとりを通して、適宜行っていく。										

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習Ⅱの意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅰでの学びや課題を踏まえて、保育実習Ⅱの意義と目的について説明することができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰの反省や課題についてまとめておくこと。保育実習Ⅱの意義と目的を理解し、自らの課題と照らし合わせておくこと。	
2回	授業内容	保育士の専門性と倫理の理解	
	学習成果	保育士の専門性と倫理について、これまでの実習や教科での学びも踏まえて自らの言葉で説明することができる。	
	予習復習の内容	保育士の専門性と倫理について調べておくとともに、自分の考えを含めて、討議できるようにしておくこと。	
3回	授業内容	子どもの状態に応じた適切なかわりの理解	
	学習成果	保育現場における具体的な子どもの姿を想定し、自らの知識・技能を活かしてどのように子どもと関わるかについて述べるることができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰにおいて、子どもとの関わりで戸惑いや迷った場面を他者と共有できるようにし、次同じような場面でのようにかかわるか具体的に説明できるようにしておくこと。	
4回	授業内容	環境と生活を通して行う保育の総合的理解	
	学習成果	環境や生活を通して行う保育について、具体的な視点や環境構成等について説明することができる。	
	予習復習の内容	子どもとの直接的な関わりだけでなく、間接的な援助の方法について具体的にイメージしておくこと。	
5回	授業内容	保育の全体計画に基づく具体的な計画の理解	
	学習成果	全体的な計画の中に、日々の具体的な計画がどのように位置づけられ、計画の一つ一つが相互に関連しているかについて述べるることができる。	
	予習復習の内容	保育の計画（全体的な計画・長期計画・短期計画等）について、確認しておくこと。それぞれの計画が持つ意義や目的について理解しておくこと。	
6回	授業内容	指導計画の立案・作成の理解	
	学習成果	実習Ⅱに向けて、具体的な場面や活動を想定し、実習Ⅰの反省点を踏まえた指導計画を立案・作成することができる。	
	予習復習の内容	実習Ⅰで実施した指導案を見直し、反省点や改善点について具体的に挙げられるようにしておくこと。	
7回	授業内容	記録の意義と実習日誌の記入方法の理解	
	学習成果	記録をすることの意義について理解し、実習日誌の記入・記録にあたっての具体的な方法や留意点について説明することができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰの記録の反省点・改善点をまとめ、よりよい記録をするために必要な課題について説明することができる。	
8回	授業内容	保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	
	学習成果	保育における観察・記録を通して、自らの保育を評価・改善していくプロセスについて、具体的に述べるることができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰの自己評価や記録を踏まえて、自らの保育や子どもと向き合う姿勢について振り返り、保育実習Ⅱに向けた課題を挙げられるようにしておくこと。	
9回	授業内容	保育実習Ⅱの課題の作成	
	学習成果	これまでの実習や教科における学習を踏まえて、自らの課題について他者に伝わる表現を用いて記述することができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅰやこれまでの教科で学んだことを踏まえて、保育実習Ⅱで意識して取り組んでいきたいことについて深く考えておくこと。また、設定した課題に、具体的にどのように取り組んでいくかについて説明できるようにしておくこと。	
10回	授業内容	保育実習Ⅱの留意事項	
	学習成果	保育実習Ⅱに臨むにあたっての具体的な留意事項について説明することができる。	
	予習復習の内容	保育所実習Ⅱに対してどのような姿勢で取り組むか、どのような準備が必要かについてまとめておくこと。	
11回	授業内容	実習の総括と自己評価	
	学習成果	保育実習Ⅱにおける学びについて、客観的に自己を評価し、他者に伝えることができる。	
	予習復習の内容	保育実習Ⅱを通して学んだことや反省点について、他者と共有できる形でまとめておくこと。自己評価を踏まえて、今後取り組んでいく課題を挙げられるようにしておくこと。	
12回	授業内容	地域子育て支援の計画と実践	
	学習成果	実習を通して得た学びを踏まえて、他者と協働しながら、地域子育て支援を計画・実践することができる。	
	予習復習の内容	子どもが活動や遊びに取り組む具体的な姿をイメージしながら、地域子育て支援の具体的な内容について案を考え、具体的な進め方について見通しを持てるようにしておくこと。	
13回	授業内容	実習の振り返りと模擬授業を通じた保育の改善：実習報告会	
	学習成果	保育実習を通して得た知識や経験を振り返り、具体的な言葉や自らの姿によって、他者に説明することができる。	
	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びの中で、自分が伝えたいことを選び、具体的な伝え方について考えておくこと。	
14回	授業内容	実習の振り返りと模擬保育を通じた保育の改善：教材研究	
	学習成果	保育所実習を通して得られた学びを、どのような形で伝えることができるかについて、他者と協働しながら討議し、教材研究等を通し、表現することができる。	
	予習復習の内容	保育所実習を通して得られた学びを、どのように模擬保育として具体的に形にしていこうかについて他者と話し合いができるようまとめておくこと。	
15回	授業内容	課題および学習目標の明確化	
	学習成果	実習やこれまでの学習成果を踏まえ、保育者として自分が取り組むべき新たな課題を設定し、具体的な言葉で論じることができる。	
	予習復習の内容	これまでの自分の経験や学習について振り返り、自己評価も含めて、自らの課題と今後の目標について説明できるようにしておくこと。	

科目名	保育実習指導Ⅲ				担当者	カトウ カズコ サトウ マリコ ヤマモト マコト キミジマ トモコ 加藤 和子・佐藤万利子・山本 信・君島 智子						
区 分	選択	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	演習	学年	2年	開講期	後期
教員との連絡方法 質問等の受付方法	kazuko.kato@seiwa.ac.jp, sato.mariko@seiwa.ac.jp, iwabuchi.setsuko@seiwa.ac.jp											
専門的 学習成果	①	保育実習の意義・目的を理解し、その内容を説明することができる。										
	②	実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にすることができる。										
	③	実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解し、それらを考慮した行動がとれる。										
	④	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について理解し、実践できる。										
	⑤	実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確に表現することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	保育実習の意義・目的を理解し、実習中の自らの課題を明確にし、継続的に取り組むことができる。(専門的学習成果①②④⑤に関連)										
	(2)	児童福祉施設の種別ごとの特徴を理解し、それらの施設の社会的役割やニーズを理解したうえで、保育者として子どもの理解や支援につなげることができる。(専門的学習成果②③に関連)										
授業概要	保育士資格取得に向けた保育実習Ⅲを行うにあたって必要とされる知識・技術を獲得する。これまでの保育実習Ⅰ及び保育実習Ⅱにおける学びを踏まえ、自身の保育実習Ⅲの期間中継続的に取り組む課題を明確にする。実習施設の種別ごとに、施設の概要や役割を理解する。さらに、他教科における学びとの統合化を図るとともに、実践に必要な知識と技術について学び、保育についての認識を深める。実習後は振り返りと自己評価及び実習報告会を行い、自己の新たな課題や学習目標を明確にする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート										
		事前事後指導 状況	30	事前事後指導への取り組み・意欲・態度、提出物の状況により評価を行う。								
		実習評価	30	実習施設の評価により行う。								
汎用的 学習成果	実習日誌等総合 評価	40	実習日誌、指導案等の内容により評価を行う。									
テキスト 等	著者・編集者名	書名										出版社名
	聖和学園短期大学保育 学科	『教育・保育実習ガイドブック』										
	宮城県保育実習連絡協 議会編	『保育実習の手引き』										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名										出版社名
	厚生労働省	『保育所保育指針解説書』										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①この科目の時間外学習として、児童福祉施設の種別ごとの特徴やそこで生活する子どもの支援ニーズについて、これまでの専門教科の学習内容を復習すること。また、指導案の作成、支援のための教材研究なども時間外学習に含む。 ②実習後は学習内容を整理し、疑問点を文献資料等で調べ理解する。また、自己評価を通して新たな課題、学習目標を明確にしておく(復習：週2時間程度)。											

授業計画			学習成果の評価
1回	授業内容	保育実習Ⅲの意義と目的	
	学習成果	保育実習Ⅲの意義と目的を理解し、概要を説明できる。	
2回	予習復習 の内容	「教育・保育実習ガイドブック」の目的を読み、理解する。	
	授業内容	児童福祉法の理解	
3回	学習成果	養護系の施設について、児童福祉法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
4回	授業内容	障害者総合支援法の理解	
	学習成果	障害系の施設について、障害者総合支援法及び配布資料によって理解を深め、概要を説明することができる。	
5回	予習復習 の内容	配布資料を整理し、授業内容をまとめておく。	
	授業内容	保育所保育の実際	
6回	学習成果	保育所保育の実際について、実習経験等に基づいてまとめることができる。	
	予習復習 の内容	これまでの保育所保育の資料をまとめておく。	
7回	授業内容	施設保育の実際	
	学習成果	施設保育について、施設の状況や一日の流れを理解し概要をまとめることができる。	
8回	予習復習 の内容	施設保育についての授業内容を振り返る。	
	授業内容	施設の形態と子どもの生活および職員の働き方	
9回	学習成果	施設の形態と、そこでの子どもの生活及び職員の働き方について理解を深め、ワークシートにまとめることができる。	
	予習復習 の内容	自分が実習を行う施設の形態について理解を深めておく。	
10回	授業内容	実習生の立場と実習内容	
	学習成果	実習施設における実習生の立場と実習内容について、ガイドブックより理解を深め、説明することができる。	
11回	予習復習 の内容	ガイドブックを活用し、実習生の立場と実習内容について復習しておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの実習日誌の意義と記録方法	
12回	学習成果	実習日誌の記録方法を振り返り、日誌の意義について説明できる。	
	予習復習 の内容	ガイドブックの「日誌の書き方」を復習しておく。	
13回	授業内容	保育実習Ⅲの方法の理解	
	学習成果	施設での具体的な養護内容、保育士の支援方法や援助技術を理解し、説明することができる。	
14回	予習復習 の内容	養護内容や支援方法、援助技術について理解を深めておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの実習目標と課題の明確化	
15回	学習成果	保育実習Ⅲにおける自己の実習課題を明確にし、文章に表現できる。	
	予習復習 の内容	実習課題をさらに整理し、実習日誌に記入する。	
16回	授業内容	保育士倫理の理解	
	学習成果	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性を理解し、説明することができる。	
17回	予習復習 の内容	守秘義務の遵守、プライバシーの保護の重要性について理解を深めておく。	
	授業内容	人権尊重と保育内容・援助の理解	
18回	学習成果	子どもの人権の尊重と保育内容・援助について理解を深め、説明することができる。	
	予習復習 の内容	人権尊重と保育内容・援助について復習しておく。	
19回	授業内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項	
	学習成果	ガイドブックにより、保育実習Ⅲに対する心構えと留意事項を理解し、説明することができる。	
20回	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの心構えと留意事項について復習しておく。	
	授業内容	保育実習Ⅲの振り返り	
21回	学習成果	保育実習Ⅲの振り返りを行い、自己課題を発見できる。	
	予習復習 の内容	保育実習Ⅲの振り返りと発見した課題をワークシートに記入しておく。	
22回	授業内容	課題及び学習の明確化	
	学習成果	振り返りにより見えた課題について、どのような学習をすればよいか考察することができる。	
23回	予習復習 の内容	考察内容を記録しておく。	
	事前学習・授業への取り組み 以下の点について、具体的に口頭での説明・文章での記述ができるかについて確認・評価を行う。 ・実習生の立場と実習内容 ・保育実習Ⅲにおける自己の実習課題	事前学習・授業への取り組み 以下の点について、具体的に口頭での説明・文章での記述ができるかについて確認・評価を行う。 ・守秘義務 ・子どもの人権尊重	
24回	授業内容	保育実習Ⅲの振り返りを記入したワークシートにより確認・評価を行う。	
	予習復習 の内容		

科目名	子どもの生活				担当者	加藤和子（実務家教員）						
区分	選択	2	単位	授業回数	15	回	授業形態	講義	学年	2年	開講期	後期
授業時間数	30 時間											
教員との連絡方法 質問等の受付方法	オフィスアワーで受け付ける。オフィスアワーは初回授業で連絡する。											
専門的 学習成果	①	生活科の特質と意義について理解し、説明できる。										
	②	幼児教育におけるアプローチカリキュラムの重要性と生活科の関連性を説明できる。										
	③	生活科の実際について理解し、説明できる。										
	④	環境教育と生活科の実際を、事例やフィールドワークをもとに理解し、保育実践につなげることができる。										
汎用的 学習成果	(1)	幼児教育と小学校教育のつながりを理解し、専門的知識を習得し、保育の実践につなげることができる。（専門的学習成果①②に関連）										
	(2)	接続カリキュラムを学習することで、保育者の社会的役割や連携、協働の重要性を理解し、地域社会で活用することができる。（専門的学習成果③④）										
授業概要	平成元年に新設された小学校低学年における「生活科」について、その特質と意義を学ぶ。幼保小接続における生活科の役割を理解し、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて理解する。子どもたちが生活を通して、地域社会、自然と関わりながら体験的に学ぶことの重要性を理解し、その学びを支援する方法についてフィールドワークや事例検討を通して学ぶ。教員の精神保健福祉士としての精神保健センターでの実務経験をもとに具体的理解を深めることができるよう講義を展開する。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験	70	「学習成果の評価」に示す内容について、60%以上の得点を合格点とする。								
		レポート	15	内容、構成、文章力で評価を行う。								
		小テスト	15	学習内容の理解を記述式テストで評価を行う。各5%を3回実施。								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果(1)(2)については、以下の通り専門的学習成果により評価する。 (1)は専門的学習成果①②で評価を行う。 (2)は専門的学習成果③④で評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領』（平成29年3月告示）										
	文部科学省	『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成29年3月告示）										
参考書 参考文献	著者・編集者名	書名				出版社名						
	文部科学省	『幼稚園教育要領解説』（平成30年）										
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等	①日常生活の中で新聞・テレビなどから積極的に子どもを取り巻く環境に関する情報を得ること。特に授業内容に関連する部分については、テキスト該当部分の読了に加え事前に関係する文献を読み、理解を深めておくこと（予習：週2時間程度）。 ②毎回授業終了後にミニッツレポートの提出を促し、次の授業で全体に向けてフィードバックを行うことから、テキストをもとに授業時間外学習を行って授業に臨むこと（復習：週2時間程度）。											

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	生活科と幼保小接続	小テスト：記述式 (第3回授業後半に実施) ・幼保小接続 ・生活科ができた背景	
	学習成果	幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性について説明できる。		
予習復習の内容	幼児期全体の教育課程と小学校入学時の教育課程について理解しておくこと。円滑な接続の必要性について説明できるようにしておくこと。			
2回	授業内容	生活科ができるまで：その背景		
	学習成果	平成元年に新設された小学校低学年を対象とした生活科設置の背景について説明できる。		
予習復習の内容	生活科ができた背景を理解しておく。			
3回	授業内容	生活科と子どもを取り巻く環境の変化		
	学習成果	子どもを取り巻く環境の変化について生活科と関連付けて説明できる。		
予習復習の内容	子どもを取り巻く環境の変化と生活科について理解しておく。			
4回	授業内容	生活科の意義と特質		小テスト：記述式 (第6回授業後半に実施) ・生活科の意義 ・生活科の特質 ・スタートカリキュラム
	学習成果	生活科の概要について説明できる。		
予習復習の内容	生活科の意義や特質について理解しておく。			
5回	授業内容	幼児教育と生活科		
	学習成果	幼児教育と接続する生活科における体験の重要性について説明できる。		
予習復習の内容	スタートカリキュラムについて理解しておく。			
6回	授業内容	生活科の実践例		
	学習成果	実践例から生活科について理解し、生活科の内容を具体的に説明できる。		
予習復習の内容	実践例をもとに生活科を理解しておく。			
7回	授業内容	幼児教育におけるアプローチカリキュラム	小テスト：記述式 (第10回に実施) ・アプローチカリキュラム ・保育課程と教育課程	
	学習成果	アプローチカリキュラムについて説明できる。		
予習復習の内容	アプローチカリキュラムの内容を理解し、説明できるようにしておく。			
8回	授業内容	アプローチカリキュラムにおけるねらいと生活科		
	学習成果	幼児期の全体的な計画を踏まえたアプローチカリキュラムと生活科のつながりを説明できる。		
予習復習の内容	アプローチカリキュラムのねらいを理解し、生活科と関連付けて説明できるようにしておく。			
9回	授業内容	生活科の実践例		
	学習成果	実践例から生活科について理解し、生活科の内容を具体的に説明できる。		
予習復習の内容	実践例をもとに生活科を理解しておく。			
10回	授業内容	生活科の実践例：地域を知る		
	学習成果	地域を知るフィールドワークを通して生活科について理解し、生活科の内容を具体的に説明できる。		
予習復習の内容	フィールドワークをもとに生活科の実際を理解する。			
11回	授業内容	生活科の実践例：自然を知る		レポート (第14回終了までに提出) テーマ「幼児教育と小学校教育をつなぐ生活科」 アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム、体験の重要性を事例を踏まえてまとめる。 1200字
	学習成果	校庭探検を通して生活科について理解し、生活科の内容を具体的に説明できる。		
予習復習の内容	校庭探検をもとに生活科の実際を理解する。			
12回	授業内容	生活科の授業内容		
	学習成果	事例から具体的な生活科の授業内容を理解し、内容と構成について説明できる。		
予習復習の内容	生活科の授業に関する事例を調べ、様々な取り組みを通して生活科を理解する。			
13回	授業内容	幼保小連携：幼児・児童の交流		
	学習成果	幼保小連携において互いに育ち合うような交流の積み重ねが重要であることを説明できる。		
予習復習の内容	幼児・児童の交流について事例を調べ、必要性を理解する。			
14回	授業内容	幼保小連携：幼稚園教諭・保育士・教師の交流		
	学習成果	交流を通し、相互理解を深めることの重要性を理解し、説明できる。		
予習復習の内容	幼稚園教諭・保育士・教師の交流について事例を調べ、必要性を理解する。			
15回	授業内容	生活科を取り巻く課題	定期試験：筆記試験 15回の内容理解を評価する。配布資料をもとに内容を整理し、理解しておくこと。	
	学習成果	生活科を中心とした合科的・関連的な学習プログラムの課題について説明できる。		
予習復習の内容	スタートカリキュラムをより効果的にするための生活科の課題を理解する。			



科目名	教育実習事前事後指導Ⅱ				担当者	石 森 真由子 ・ 上 村 裕 樹						
区 分	必修	1	単位	授業回数	15	回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	通年
教員との連絡方法 質問等の受付方法				研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。								
専門的 学習成果	①	教育実習の意義や目的について理解し、教育実習生として遵守すべき義務やその責任について説明できる。										
	②	教育実習の実習内容を理解し、その実践のために必要な知識や技術の習得に向けて、自ら積極的に取り組み、その成果を報告することができる。										
	③	実習で得られた知識と経験を振り返ることができ、具体的に説明・報告することができる。										
	④	実習で得られた知識と経験を振り返りを通し、自らの学習について、新たな目標や課題を具体的に設定することができる。										
	⑤	自らが設定した目標や課題の達成に向けて、学習のプロセスについて自ら計画することができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、進路選択における保育職のあり方を考え表現することができる。（専門的学習成果①②）										
	(2)	自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探求し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。（専門的学習成果③④⑤）										
	(3)	自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探求することができる。（専門的学習成果②③④⑤）										
授業概要	実習の計画と準備から、実習内容、実習の振り返りと課題探求、課題解決といった一連の実習に係る学習の充実に向けて、教育実習事前指導および事後指導において、専任教員によるグループ別指導および個別指導を行う。実習前指導として、実習計画の作成や課題設定、教材研究、指導計画立案、ロールプレイを行い、実習活動において必要とされる知識や技術を身につける。実習終了後は、反省会を行い、実習を振り返ることで、自らの実習活動における課題探求に取り組み、課題解決に向けた一連の取り組みを身につけ、課題解決のための学習を身につける。その後、実習報告会の準備と、グループ別の反省記録をもとに、報告会の資料を作成し、実習を振り返り、学びの場とする。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		レポート	30	各種レポートの提出と評価								
		提出物	30	受講課題の提出と評価								
	ワークの取 組み	40	受講時の取り組み（参与・貢献）の評価									
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名				出版社名					
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編		『教育実習の手引き』									
			『教育・保育実習ガイドブック』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名				出版社名					
	文部科学省		『幼稚園教育要領』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①この科目では時間外学習（15時間）として、実習に必要な教材準備、幼稚園教育要領および幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等の事前学習、指導案の作成、教材研究、学習の成果と課題の整理・反省のまとめとして事後学習を行うこと。 ②提出された課題は適宜フィードバックを実施する。										

授業計画			学習成果の評価	
1回	授業内容	教育実習の意義と目的		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	教育実習の意義と目的について説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
2回	授業内容	実習準備、課題の作成		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習課題の提出
	学習成果	実習に必要な準備について説明ことができ、計画と課題を作成することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
3回	授業内容	指導案の作成と教材研究		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画を作成ことができ、それに伴う教材研究について計画することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
4回	授業内容	構想を展開するための教材研究		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の展開を構想するための教材研究を行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
5回	授業内容	構想を展開するための指導計画とロールプレイ		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	教材研究に基づく指導案の作成ができ、ロールプレイを行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
6回	授業内容	子どもの発達を踏まえた計画の必要性		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	子どもの発達を踏まえた計画について、その必要性を理解し、説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
7回	授業内容	指導計画と子どもの発達をふまえた考察の観点を学ぶ		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷指導計画の提出
	学習成果	指導計画の子どもの発達を踏まえた考察の観点について説明することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
8回	授業内容	実習の振り返りと自己評価		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己評価チェックリストの提出
	学習成果	実習の振り返りを行うことができ、客観的視点での自己評価を行うことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
9回	授業内容	自己の課題の明確化		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	実習の振り返りをもとに、自らの新たな課題について、具体的に示すことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
10回	授業内容	反省と自己課題の発見		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷振り返り報告書の作成と提出
	学習成果	自らの示した課題について、その解決のためのプロセスを自ら考えることができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
11回	授業内容	事務手続きの把握		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価
	学習成果	幼稚園教諭免許状取得に向けた事務手続きについて理解し、具体的に取り組むことができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
12回	授業内容	実習園による実習評価のフィードバック		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習施設からの評価のフィードバックをもとに、自らの課題を明確にできる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
13回	授業内容	自己評価と実習評価のずれの確認		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	自己評価と実習評価の乖離を確認し、自らの課題について、示す事ができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
14回	授業内容	体験の振り返りと自己課題の明確化		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷自己課題の作成と提出
	学習成果	実習の体験をグループワークにおいて振り返り、自らの課題をメンバーに報告し、メンバーの課題について、提案することができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		
15回	授業内容	子ども理解と学びの共有（実習報告会）		▷グループワーク 取り組み・活動の成果・評価 ▷実習報告会報告書
	学習成果	実習報告会において、自らの学びを報告ことができ、メンバーと共に協働的に学びを深めることができる。		
	予習復習 の内容	学習課題への取り組み		

科目名	教育実習				担当者	石 森 真由子 ・ 上 村 裕 樹						
区 分	選択	4	単位	授業回数		回	授業形態	実習	学年	2年	開講期	前期
教員との連絡方法 質問等の受付方法		研究室への訪問、または担当者のメールへの連絡（学籍番号・氏名記載必須）とする。										
専門的 学習成果	①	保育者としての業務や、学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解し、説明することができる。										
	②	実習活動での様々な場面において、自身の保育活動を客観的に評価しながら、幼児と適切に関わることができる。										
	③	保育形態や保育展開、環境構成の仕組みを实地に即して理解することができ、実習生として保育活動に取り組むことができる。										
	④	幼児の体験との関係を考慮しながら適切な場面で学習理解に向けた情報機器を用いることができる。										
	⑤	実習における自らの課題を振り返り、翌日以降の保育活動に適切に活かすことができる。										
汎用的 学習成果	(1)	現代社会における保育者の重要性の高まりを理解し、教職の意欲を高め、保育職のあり方を考え表現することができる。 (専門的学習成果①②③④)										
	(2)	自らの活動を振り返り、省察を行うことで、課題を探究し、解決するためのプロセスを学び、実践的課題の解決に向けて取り組むことができる。(専門的学習成果②③④⑤)										
	(3)	自ら課題を見出し、将来に渡り学び続けるための基礎となる研究心が養われ、学びに向かい続け探究することができる。 (専門的学習成果②③⑤)										
授業概要	聖和幼稚園で行う2日間の予備実習と、5月下旬から6月下旬にかけての4週間に渡る各幼稚園にて行う約20日間の教育実習の双方の活動にて、本授業は構成される。この期間は、実習施設となる各幼稚園の担当教諭のもと、保育者として実際に保育活動を体験する。そして、そのような実習活動を通して、幼児の姿や活動、保育の流れと展開、幼児との接し方、教員（保育者）の役割と責任、保育環境の構成と整備、保育者との関わり方（同僚との連携）といった保育の基本について学ぶ。また、自らの実習活動を常に振り返り、自身の保育実践の課題を明らかとし、自らの保育活動の改善を図る。											
評価方法 基準等	学習成果	種別	割合 (%)	評価方法・基準								
	専門的 学習成果	定期試験										
		施設評価	50	実習施設による実習評価と報告、出勤も含めた実習活動状況に基づく								
		学内評価	50	実習記録（実習日誌、指導計画、実習報告等）及び実習巡回指導結果に基づく								
汎用的 学習成果	汎用的学習成果の評価は、上記の通り、専門的学習成果の評価により評価を行う。 (1) は、専門的学習成果①・②・③・④にて評価を行う。 (2) は、専門的学習成果②・③・④・⑤にて評価を行う。 (3) は、専門的学習成果②・③・⑤にて評価を行う。											
テキスト 等	著者・編集者名		書名							出版社名		
	宮城県幼稚園教育実習 連絡協議会編		『教育実習の手引き』									
	聖和学園短期大学保育 学科		『教育・保育実習ガイドブック』									
参考書 参考文献	著者・編集者名		書名							出版社名		
	文部科学省		『幼稚園教育要領』									
	文部科学省		『幼稚園教育要領解説』									
	内閣府・文部科学省・ 厚生労働省		『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』									
①準備学習等履修上の留意点 ②課題に対するフィードバックの方法等		①本授業では、時間外学習（120時間）として、実習に必要な教材準備、教材研究、指導計画作成、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認等といった事前学習、実習記録や報告、学習の成果と課題の整理、反省とまとめといった記録を含む事後学習を行うこと。 ②実習活動に関する取り組みにおいては、実習巡回指導（訪問指導）などを通じて、適宜フィードバックを行う。										

授業計画			学習成果の評価
予備実習	授業内容	聖和幼稚園での2日間の実習による保育体験	
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とのかかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
1週目 (1-5日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（1週目）	
	学習成果	幼稚園の教育内容・機能・園生活の流れなどについて理解し、補助的な立場で遊びや生活を通して幼児とのかかわる中で一人一人を理解すると同時に、幼児の発達の実態や課題を把握し、援助・指導の在り方を記録し、報告することができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
2週目 (6-10日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（2週目）	
	学習成果	幼稚園教諭の専門性や職務内容及び役割などに関して説明することができると共に、保育技術の習得に向けて、実習生自身が様々な働きかけを子どもや保育者に対して行うことができる。また、幼稚園教諭の保育を視点を持って観察し、事実 に即して記録することが出来る。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
3週目 (11-15日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（3週目）	
	学習成果	幼児一人一人の個性や特徴、発達課題を理解したうえで、個に応じた援助を実践することができる。また、指導計画の立案や活用方法を学び、保育を実践することができる。その他、保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を实地に即して身に付け、用いようとする事ができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
4週目 (16-20日目)	授業内容	各実習園での約20日間の実習（4週目）	
	学習成果	保育に必要な基礎的技術（話法、保育形態、保育展開、環境構成等）を实地に即して身に付け、保育実践に活用することができる。幼稚園教育の基本を理解し、様々な場面で、適切に幼児と関わる事ができる。	
	予習復習 の内容	事前学習：教材準備、教材研究、幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領の確認、指導計画の立案・作成 事後学習：実習記録や報告書類の作成、実習活動の振り返り	
	授業内容		
	学習成果		
	予習復習 の内容		